

ANTENNA

2026年入試への万全の対策

第2回全統共通テスト模試

大学入試において「天王山」といわれる夏休みも終わり、いよいよ受験戦線が本格化する時期に差しかかりました。こうした状況の中、全国から328,129名の受験生が参加し実施された、第2回全統共通テスト模試の結果をお届けします。

今回の模試は実施時期を考慮して夏期の学習の成果を確認し、弱点科目・不得意分野の再発見を目的とする出題にしました。

「学習の手引き」や本冊子の「学習対策」を活用して、今一度、基本的な事項をしっかりと確認し、応用力の養成の基盤を固めてほしいと思います。今の実力に甘んじることなく、今後ますますチャレンジ精神を発揮して、みごと栄冠を勝ち取るよう学習に励んでください。

《次回実施のご案内》

次回全統模試のご案内については、こちらをご確認ください。

www.kawai-juku.ac.jp/zento/



スマートフォンの方はこちら

も く じ

見直しシート	2
個人成績表の見方	3
成績統計資料	7
総合成績表	7
科目別成績表	8
教科科目別設問別成績表	10
設問別正答率表	13
学習対策	17
英語	17
数学	18
国語	18
理科	19
地理歴史、公民	22
情報	24
訂正について	25
「成績推移」過回成績表示 申請について	27
お問い合わせ先一覧	29

* 本冊子の編集内容の無断転載・複製を禁止します。

全統模試 見直しシート

STEP 1

個人成績表「1. 成績概況」を確認し、受験した教科・科目と得点を書き込みましょう。

STEP 2

個人成績表「3. 設問別成績」の、あなたと同じ学力レベル層や、第1志望校の一段階上の判定者との成績比較で差が見ついた設問を確認し、弱点となっている分野を書き込みましょう。

STEP 3

弱点分野を中心に、「学習の手引き」や本冊子の「学習対策」、模試ナビの解説講義動画などを確認し、今回の模試の反省点と、今後の具体的な対策（何を、いつまでにやるのか）を書き込みましょう。

STEP 4

個人成績表「2. 志望校別成績・評価」を参考に、次回の模試の目標得点を書き込みましょう。

STEP 1		STEP 2	STEP 3		STEP 4
教科・科目	得点/配点	弱点分野	今回の反省点	今後の対策	次回の目標得点
(例) 英語	52/100	文法・語法	基本的な文法の理解ができていない	次回の模試までに文法集の11～30ページをノートにまとめて復習する	65/100
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/

個人成績表の見方

各項目について、詳しくはP.5~6をご確認ください。

1-(1) 成績概況

自分の学力状況や全国での位置づけを確認しましょう



各科目の得点や偏差値、順位、平均点などを表示しています。

1-(1) 受験型	2年	あなたの得点	偏差値	学力レベル	全国		県内		校内		
					平均点	順位	平均点	順位	平均点	順位	
英語	90/100	70.4	S	50.6	6943 / 648902	49.6	61.6	5324 / 597282	69.0	56.7	9 / 289
リスニング	96/100	72.5	S	55.9	1624 / 627882	55.0	66.4	1624 / 579018	68.5	85.1	5 / 288
英語+リスニング	186/200	72.8	S	106.8	2757 / 627166	105.0	128.8	2126 / 578390	121.8	101.8	4 / 288

1-(2) 合格可能性評価用成績

合格可能性評価の算出に利用する成績を表示しています。



共通テスト換算得点：今回の模試の得点を、直近の大学入学共通テストの得点に換算したものです。



私大評価用偏差値：数学と国語の偏差値を表示しています。(志望大学の入試科目に応じて利用します)

全統共通テスト模試 個人成績表 第1面【秘】

1-(1) 受験型	2年	あなたの得点	偏差値	学力レベル	全国	県内	校内
英語	90/100	70.4	S	50.6	6943 / 648902	49.6	61.6
リスニング	96/100	72.5	S	55.9	1624 / 627882	55.0	66.4
英語+リスニング	186/200	72.8	S	106.8	2757 / 627166	105.0	128.8

全統共通テスト模試 個人成績表 第2面【秘】

科目	得点	偏差値	学力レベル
英語	90	70.4	S
リスニング	96	72.5	S
英語+リスニング	186	72.8	S

全統共通テスト模試 個人成績表 第2面【秘】

内容	得点	偏差値	平均点	標準偏差	得点率の差	設問別バラン	第1志望校との成績差
1 読解-情報	10 / 10	6.6	7.1	1.0	11.0%	Sレベル	1 8.6 / 1.4
2 読解-情報	18 / 20	11.0	13.7	2.0	-1.5%	Sレベル	2 18.2 / -0.2
3 読解-資料	15 / 15	10.4	11.8	1.3	0.7%	Fレベル	3 14.5 / 0.5
4 読解-記事	11 / 16	5.8	6.1	0.3	-0.6%	Fレベル	4 10.5 / 0.5
5 読解-記事	15 / 15	6.8	8.5	1.7	0.7%	Fレベル	5 13.2 / 1.8
6 読解-論説	21 / 24	9.1	9.6	0.5	2.9%	Fレベル	6 19.2 / 1.8

全統共通テスト模試 個人成績表 第3面【秘】

科目	得点	偏差値	学力レベル
英語	90	70.4	S
リスニング	96	72.5	S
英語+リスニング	186	72.8	S

全統共通テスト模試 個人成績表 第3面【秘】

科目	得点	偏差値	学力レベル
英語	90	70.4	S
リスニング	96	72.5	S
英語+リスニング	186	72.8	S

全統共通テスト模試 個人成績表 第3面【秘】

内容	得点	偏差値	平均点	標準偏差	得点率の差	設問別バラン	第1志望校との成績差
1 読解-情報	10 / 10	6.6	7.1	1.0	11.0%	Sレベル	1 8.6 / 1.4
2 読解-情報	18 / 20	11.0	13.7	2.0	-1.5%	Sレベル	2 18.2 / -0.2
3 読解-資料	15 / 15	10.4	11.8	1.3	0.7%	Fレベル	3 14.5 / 0.5
4 読解-記事	11 / 16	5.8	6.1	0.3	-0.6%	Fレベル	4 10.5 / 0.5
5 読解-記事	15 / 15	6.8	8.5	1.7	0.7%	Fレベル	5 13.2 / 1.8
6 読解-論説	21 / 24	9.1	9.6	0.5	2.9%	Fレベル	6 19.2 / 1.8

2 志望校別成績・評価

志望校までの距離やライバルの中での位置づけを確認しましょう



大学・学部ごとの合格可能性評価、志望者内の順位、教科別成績などを表示しています。



合格可能性評価の記号の意味は右表のとおりです。受験教科・科目に不足がある場合には、注意表示がされます。



第1志望~第4志望には「評価別人数」のグラフが表示しています。黒く塗られた得点(偏差値)帯があなたの位置を表しています。

- A : 合格可能性評価80%以上
- B : 合格可能性評価65%
- C : 合格可能性評価50%
- D : 合格可能性評価35%
- E : 合格可能性評価20%以下
- G : 教科・科目数の不足
- H : 範囲不足

3 設問別成績

分野ごとの成績や、どの分野でライバルと差がついたのかを確認しましょう



各科目の設問別の成績や、成績を基にした学習アドバイスを表示しています。



あなたと同じ学力レベル層(S~Fレベル)の平均点とあなたの得点を比較して、最も良かった設問に○、悪かった設問に▲を表示しています。



第1志望について、あなたの評価より一段階上の判定者との成績比較を表示しています。

個人成績表の見方

各項目について、詳しくはP.5～6をご確認ください。

4. 正答・誤答マーク読み取り状況

具体的にどの問題でつまづいたのか、マークの塗り間違いはなかったか確認しましょう

- 問題ごとのマーク読み取り状況と正誤状況を表示しています。

5. 成績推移

学習成果の長期的な推移を確認しましょう

- 昨年度の全統共通テスト高2、今年度の第1～3回全統共通テスト模試、全統プレ共通テストの成績推移を表示しています。

全統共通テスト模試 個人成績表 第3面【秘】

3 設問別成績

内容	得点	全国	平均	偏差値	標準偏差	順位	偏差値	標準偏差	順位
1の中身	15	20	11.6	14.0	1	13.8	1.2	6.91	179
2の中身	23	30	20.2	22.7	2	23.3	-0.3	-1.1%	2
3の中身	17	15	8.7	10.5	9	10.9	6.1	24.6%	9
4の中身	16	12	13.2	16.8	4	17.8	1.8	-7.2%	4

4 正答・誤答マーク読み取り状況

○=正答 ×=誤答 △=部分点 S=正解ボタンが複数あり正誤が表示できないもの N=無解答 マークがうすい等 W=余分にマークしている

大問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
英語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リスニング	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
数学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

大問番号 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

解答番号 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

正誤 ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ × ○ ×

マーク 1 2 4 3 3 2 4 5 4 1 3 3

河合塾

全統共通テスト模試 個人成績表 第4面【秘】

5 正答・誤答マーク読み取り状況

○=正答 ×=誤答 △=部分点 S=正解ボタンが複数あり正誤が表示できないもの N=無解答 マークがうすい等 W=余分にマークしている

科目	得点	偏差値	レベル	科目	得点	偏差値	レベル	科目	得点	偏差値	レベル
英語	70	66.1	S	英語	81	64.6	A	英語	90	70.4	S
リスニング	60	59.2	B	リスニング	74	65.3	S	リスニング	86	72.5	S
数学	60	60.0	A	数学I A	58	58.0	B	数学I A	62	58.2	B
数学II A	61	61.9	A	数学II B	73	59.2	B	数学II B	80	66.5	S
数学II C	61	61.9	A	数学II C	131	59.0	B	数学II C	142	63.6	A

全統共通高2 (1月)

第1回共通テスト (5月)

第2回共通テスト (7月)

1 (1) 成績概況

2 志望校別成績・評価

河合塾

個人成績表の見方＜注釈＞

1-(1). 成績概況

■学カレベルの定義は以下の通りです。

S : 偏差値 65.0 以上	D : 偏差値 45.0 ~ 49.9
A : 偏差値 60.0 ~ 64.9	E : 偏差値 40.0 ~ 44.9
B : 偏差値 55.0 ~ 59.9	F : 偏差値 40.0 未満
C : 偏差値 50.0 ~ 54.9	

■得点欄の*印はその科目の学力に対する注意を表します。その科目の偏差値が、あなたの受験した科目の偏差値の平均値より5ポイント以上下回る場合に付されます。

■総合成績には、英数国総合、「総合1」（受験型別）、「総合2」（文理別）の3種類があります。このうち総合1の「国理6-8型、国文6-8型、国公6-6型」以外は、すべて教科の偏差値の平均を用いて順位づけを行います。これは、各教科の成績（母集団内での位置）を考慮しながら、総合成績を評価するという方針によります。したがって、各教科の成績評価の尺度として偏差値を採用し、それらを総合して評価する際に、それらの平均を取るという方法で順位づけを行います。

■英数国総合は、英数国3教科以上を受験したすべての受験生が母集団です。偏差値は、英語の偏差値、数学①と数学②の偏差値の平均値、国語の偏差値の平均値です。

■総合1は受験型別により、次の各型の母集団内での位置づけを表します。

1型：国理6-8型（英語+L、数学①、数学②、国語、理科2科目、地理歴史、公民1科目、情報）

2型：国文6-8型（英語+L、数学①、数学②、国語、理科1科目、地理歴史、公民2科目、情報）

3型：国公6-6型（英語+L、数学①or数学②、国語、理科1科目、地理歴史、公民1科目、情報）

4型：私立理系型 英語（リーディング）・数①or数②と理(1)または情報から1-2の3-4教科の偏差値の平均値

5型：私立文系型 英語（リーディング）・国語と情報、数①or数②、地理歴史、公民のいずれか3-4教科の偏差値の平均値

・「リスニング」未受験の場合は「英語」の成績を用いて集計します。

・3型は1型、2型を含んだ母集団によるものです。

1型から3型の偏差値は総合得点による偏差値、4型、5型の偏差値は各科目の偏差値の平均です。また、4型、5型は4教科以下の受験者を対象とし、英語はリスニングを含まない成績を利用します。

■総合2は、文理別の位置づけを表します。

文系は英・国・「数or地or公」から2-3教科、理系は英・数・理から2-3教科の偏差値の平均です。

・文系または理系の区別は受験届の「文理別」欄のマークによります。未マークの場合は、最も高い志望順位にマークした国公立大学（マークしていない場合は私立大学）の文理区分によります。

・数学の偏差値は、①②両方を受験している場合は①②の平均を用います。片方のみを受験した場合は、その科目の偏差値を用います。

・理科、地理歴史、公民を複数科目受験している場合は、偏差値の高い科目を採用します。

■理科を2科目受験した場合は、上段に第1解答科目を表示します。また、数学、理科、地理歴史、公民において、選択科目のマーク漏れなどにより選択科目が特定できない場合、最も正答率が高い科目を採用するとともに、科目欄に「#」を表示します。

■校内成績の母集団は、現役生は在籍高校、高卒生のうち予備校生はその予備校です。また、偏差値は母集団が20名以上の場合のみ表示します。校内順位は、全国偏差値をもとに順位づけしています。

1-(2). 合格可能性評価用成績

■来年度入試において大学入学共通テストを課す大学については、共通テスト換算得点による合格可能性評価を行います。詳しくは、個人成績表の第4面の説明を参照してください。

■共通テスト換算得点は、今年度の全統共通テスト模試の科目の得点を、直近の大学入学共通テストの得点に換算したものです。今年度の全統共通テスト模試の中での位置づけが、直近の大学入学共通テストの得点分布ではどのような位置に相当するかを示すもので、来年度の大学入学共通テストの得点を予想するものではありません。*理科、地理歴史、公民において第2解答科目の共通テスト換算得点が第1解答科目より高い場合は「*」を表示します。

■私大評価用偏差値は、私立大の合格可能性評価に使う数学と国語の偏差値です。数学と国語は、より正確な学力評価を行うため志望大学の出題科目・範囲に合わせて合格可能性評価を行います。

・数学は、数学①（IA、I）のみ受験した方は数学①、数学②（IIBC）のみ受験した方は数学②の偏差値が数学（1科目）の欄に表示されます。数学①②両方を受験した方は数学（1科目）の欄には数学①、数学（2科目）の欄には数学①②の偏差値が表示されます。

（数学IAまで課す大学は、数学①までの成績で判定します）。

・国語は、3種類（現代文のみ（110点）、現代文・古文（155点）、現代文・古文・漢文（200点））の偏差値が表示されます。

・数学・国語以外の教科については「1-(1)成績概況」に表示された、各科目の偏差値を使用します。

2. 志望校別成績・評価

■河合塾の合格可能性評価は、模試ごとの志望者分布だけでなく今年度の全体志望動向を含めて予想しています。



詳しくはこちらの該当模試のページからご確認ください。

www.kawai-juku.ac.jp/zento/statistics/

■「定員」は、4年制大学および短期大学は募集人員、専門学校などは入学定員を表示しています。

・非公表の場合は河合塾推定で「*」を付しています。

・大学が若干名と公表している場合、もしくは、設定できない場合、募集人員を「0」と表示しています。

■志望した学部・学科の中で、第1志望者内での集計と総志望者での集計を行い、「順位」「平均偏差値」または「平均換算得点」を表示します。

・第1志望は、国公立大については前期、中期、後期の各日程内で最も志望順位の高い出願予定校の志望者を、私立大については私立大の中で最も志望順位の高い大学の志望者を集計対象としています。

・第2志望以下の大学・学部・学科における「第1志望者」欄の順位は、第1志望者の母集団に当てはめた場合の順位です。

■合格可能性評価

・志望大学に必要な教科・科目を1科目も受験していない場合は、合格可能性評価欄に「G」のみを付し、A~Eの評価は表示されません。

・志望大学に必要な教科・科目を一部受験していない場合は、国公立大、共通テスト利用私大・短大は不足科目を0点として扱い、一般の私立大・短大などは、受験している科目で評価偏差値を計算して評価を行い、合格可能性評価欄にG付きの評価（例：BG、CGなど）を表示しています。

・合格可能性評価は、それぞれ次の意味を表します。

- A：合格可能性評価80%以上…今のところ合格圏にあります。このペースで頑張りましょう。
- B：合格可能性評価65%…油断大敵。合格圏へもうひとふんばりです。
- C：合格可能性評価50%…ボーダーライン。合格圏めざして頑張りましょう。
- D：合格可能性評価35%…これからの努力で、まだまだ伸びます。大いに頑張りましょう。
- E：合格可能性評価20%以下……再検討を要します。学習法を一考しましょう。
- G：教科・科目数の不足…志望大学入試に必要な教科・科目を受験していません。理科の「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」2つを課している大学を志望しているが、理科の「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」を1つしか受験していない場合、「G」が付されるが、得点・偏差値は、評価に反映されます。
- H：範囲不足…以下のいずれかの場合表示されます。
一般入試私大において英語（リスニング）、または数学の範囲が不足している場合。
なお、選択科目がある場合、国公立大、共通テスト利用私大・短大の場合は、換算得点の高い方、私立大・短大・専門学校などの場合は偏差値が高い方の科目を通常は用いますが、一方の科目が範囲不足となっている場合は、成績に関わりなく範囲不足になっていないもう一方の科目を用いて合格可能性評価を行います。
- *：英・数・国・理・地公・情報の教科試験が課されない等の理由により、合格可能性評価を行いません。

■評価別人数

- 第1～第4志望には「評価別人数」グラフを表示しています。黒く塗られた得点（偏差値）帯があなたの位置を表しています。人数はそれぞれの得点帯または偏差値帯の人数です。各合格可能性評価の下限値となる得点帯または偏差値帯の左に評価を表示しています。
- ・第1～第4志望のグラフの母集団は国公立大は出願予定者、私立大（共通テスト利用私大・短大含む）は総志望者です。国公立大の場合は、出願予定以外の志望において、あなたの成績と同じ成績の方が第1志望の母集団にいない場合（人数が0人の場合）は、当該箇所に「*」を表示しています。
- ・第5～第9志望の評価基準は下記 URL から確認できます。
www.kawai-juku.ac.jp/moshi/h

・BF（ボーダーフリー）とは、ボーダーラインが設定できなかった大学の募集区分（不合格者が少ないため、合格率50%となるボーダーラインがどの偏差値帯においても存在しないもの）を表しています。BFランクの大学・学部・学科のグラフは表示されません。

●国公立大、共通テスト利用私大・短大の場合

- ・A～Dの表記はそれぞれの評価の得点帯の下限値を示します。
- ・ボーダーラインはBとCの表示の間になります。
- ・得点帯の幅（例えば10点ごとなど）は1つのグラフの中でも、一律とはならない場合があります。

●私立大・短大・専門学校などの場合

- ・A～Dの表記はそれぞれの評価の偏差値帯の下限値を示します。
- ・ボーダーランクはCの表示の偏差値帯です。

■「教科別成績」

- 各志望校の教科別の「平均偏差値」「本人成績」「大学配点（各志望校の教科別配点）」が表示されます。
- ・出願予定大学以外の国公立大については、あなたの成績は集計対象の母集団に入っていません。
 - ・私立大・共通テスト利用私大の場合は、第2～第9志望の場合でもあなたの成績は母集団に含まれています。
 - ・平均偏差値は、当該大学を志望した受験者【国公立大は出願予定者（前期・中期・後期日程各1校まで）、その他は総志望者（第1～第9志望）】が、受験した科目（理科や地理歴史、公民で複数科目を受験している受験生については、それら全科目）の平均です。入試に課されない教科についても参考として表示しています。
 - ・本人成績は、国公立大、共通テスト利用私大・短大の場合は共通テスト換算得点（1-2合格可能性評価用成績参照）を入試の配点に換算した点数です。理科、地理歴史、公民で2科目以上受験し入試で課されている科目が1科目の場合は、第1解答科目を指定している場合は第1解答科目、第1解答科目を指定していない場合は共通テスト換算得点が高い方の得点が表示されます。
 - ・私立大・短大・専門学校などの場合は成績概況の欄の科目偏差値を表示しています（母集団はその科目を受験した方です）。理科、地理歴史、公民で2科目以上受験している場合は、入試で課されている科目が1科目であれば偏差値の高い方、2科目であればそれぞれの配点のウェイトをかけて計算した偏差値が表示されます。志望校の入試で教科間選択がある場合や、配点パターンが複数あり一律に決まらない場合、合格可能性評価に使用した教科の成績が表示されています。

・下記の記号は、それぞれ次の意味を表します。

- R：第1解答科目に指定されている科目を第2解答科目で受験
- G：必須教科・科目数の不足
- H：範囲不足

・大学配点は、入試に課される教科の教科別の配点のうち、あなたの合格可能性評価に採用された教科について表示しています。ただし、あなたが受験していない教科については表示されません。

3. 設問別成績

■第1志望校の一段階上の判定者との成績比較とは、例えばあなたがC判定であれば、B判定者の平均点との比較になります（A判定の場合はA判定者の平均点との比較になります）。母集団は国公立大は出願予定者、私立大は総志望者です。一段階上の判定者が一人もいない場合は表示されません。

4. 正答・誤答マーク読み取り状況

■正誤状況の表示については以下の通りです。

- …正答
- ×…誤答
- △…部分点
- S…正解パターンが複数あり正誤が表示できないもの
- N…無回答・マークがうすい等
- W…余分にマークしている

5. 成績推移

■昨年度の全統共通テスト高2模試、今年度の第1～3回全統共通テスト模試、全統プレ共通テストの成績推移を表示しています。第1回全統共通テスト模試以降については、理科、地理歴史、公民は上段が第1解答科目になります。

◆ 総合成績表 受験者総数 328,129名

(現役：299,126名/高卒：29,003名)

「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」は2つを1科目(100点満点)として扱っています。

- (注) 1. 国理6-8型は、英語+L、数学①、数学②、国語、理科2科目、地理歴史、公民1科目、情報の集計です。
 2. 国文6-8型は、英語+L、数学①、数学②、国語、理科1科目、地理歴史、公民2科目、情報の集計です。
 3. 国公6-6型は、英語+L、数学① or 数学②、国語、理科1科目、地理歴史、公民1科目、情報の集計で、国理6-8型、国文6-8型を含んだ母集団によるものです。
 また数学、理科、地理歴史、公民2科目受験の成績については、得点の高い方を使用します。
 4. 私立理系型、私立文系型で、理科および地理歴史、公民2科目受験の成績については、偏差値の高い方を使用します。
 5. 理系は英・数・理(1科目)、文系は英・国・数または地理歴史、公民(1科目)から2～3教科の平均偏差値です。
 6. 英数国総合は、全受験者の中で英数国を受験した全ての受験生を対象とし、英数国3教科の偏差値の平均値により順位付けを行います。

	配点	平均点			標準偏差	平均偏差値			最高点	最低点	人数		
		全体	現役	高卒		全体	現役	高卒			全体	現役	高卒
国理6-8型	1000	537.6	525.0	641.8	131.1	50.0	49.0	57.9	962	59	127053	113429	13624
国文6-8型	1000	525.9	518.2	645.7	130.8	50.0	49.4	59.2	969	50	84906	79809	5097
国公6-6型	800	445.8	437.8	529.4	106.1	50.0	49.2	57.9	781	41	221584	202323	19261
私立理系型	-----	-----	-----	-----	-----	46.6	45.9	51.8	-----	-----	22712	20266	2446
私立文系型	-----	-----	-----	-----	-----	47.1	46.7	51.4	-----	-----	78136	71316	6820
英数国総	-----	-----	-----	-----	-----	50.7	50.1	57.1	-----	-----	245555	224561	20994
理系	-----	-----	-----	-----	-----	51.9	51.1	58.7	-----	-----	154893	138531	16362
文系	-----	-----	-----	-----	-----	50.1	49.8	55.0	-----	-----	171348	158879	12469

全国の受験者の中での位置を教科・科目別/志望別に確認できる「教科科目別成績順位表」「私大評価用順位表」「型別順位表」「コース別順位表」や、選択した志望校以外の大学・学部・学科の大学入学共通テスト・一般私大入試の合格可能性が確認できる「合格可能性評価基準一覧」を、河合塾 Web サイトに掲載しています。

スマートフォンの方は
こちら



www.kawai-juku.ac.jp/zento/statistics/

◆科目別成績表

〈全受験者〉

	配点	平均点			標準偏差	平均偏差値			最高点	最低点	人数		
		全体	現役	高卒		全体	現役	高卒			全体	現役	高卒
英語	100	56.4	55.3	68.6	21.9	50.0	49.5	55.6	100	0	326260	297469	28791
リスニング	100	49.5	48.8	57.3	16.4	50.0	49.6	54.8	100	0	321152	293403	27749
英語+L	200	106.1	104.2	126.5	35.7	50.0	49.5	55.7	200	2	320788	293074	27714
数学I	100	30.3	30.0	37.2	15.7	50.0	49.8	54.4	96	0	1952	1871	81
数学IA	100	47.0	45.6	60.5	18.3	50.0	49.3	57.4	100	0	258350	235492	22858
数学IIBC	100	49.2	47.8	63.6	18.8	50.0	49.3	57.6	100	0	244043	221694	22349
数学①②	200	97.3	94.5	124.6	35.4	50.0	49.2	57.7	200	0	243775	221435	22340
国語	200	115.1	113.8	129.4	32.7	50.0	49.6	54.4	200	0	312505	285518	26987
物理基礎	50	23.7	23.1	27.7	9.6	50.0	49.3	54.2	50	0	10118	8794	1324
物理	100	35.8	34.1	49.4	18.2	50.0	49.1	57.5	100	0	103208	91614	11594
化学基礎	50	20.9	20.6	27.2	9.1	50.0	49.6	56.9	50	0	68766	65067	3699
化学	100	41.0	39.3	54.4	15.9	50.0	48.9	58.4	100	0	135700	120658	15042
生物基礎	50	25.7	25.5	30.8	8.9	50.0	49.8	55.7	50	0	93584	89325	4259
生物	100	53.0	51.4	66.9	17.5	50.0	49.1	58.0	100	0	41888	37652	4236
地学基礎	50	25.7	25.4	29.3	8.9	50.0	49.7	54.0	50	0	36955	34303	2652
地学	100	41.7	40.0	47.3	18.9	50.0	49.1	52.9	100	0	634	483	151
世界史	100	45.3	44.3	57.6	18.1	50.0	49.4	56.8	100	0	57787	53078	4709
日本史	100	51.5	50.6	63.7	16.5	50.0	49.4	57.4	100	0	97147	90290	6857
地理	100	51.7	50.7	60.8	15.0	50.0	49.4	56.0	100	0	105878	95951	9927
倫理	100	50.6	49.2	62.4	15.1	50.0	49.1	57.8	97	3	22319	20012	2307
政治経済	100	44.6	44.0	54.2	13.0	50.0	49.5	57.4	100	0	110040	102703	7337
歴史公共	100	37.1	37.0	40.4	13.1	50.0	49.9	52.5	88	0	4519	4426	93
情報I	100	58.8	58.1	66.3	14.0	50.0	49.5	55.3	100	0	231359	211549	19810

〈理系〉

	配点	平均点			標準偏差	平均偏差値			最高点	最低点	人数		
		全体	現役	高卒		全体	現役	高卒			全体	現役	高卒
英語	100	58.9	57.4	71.4	-----	51.1	50.5	56.9	100	0	155153	138787	16366
リスニング	100	50.7	49.7	59.3	-----	50.7	50.1	56.0	100	0	152415	136742	15673
英語+L	200	109.8	107.3	131.4	-----	51.0	50.3	57.1	200	2	152261	136611	15650
数学I	100	32.9	32.5	39.7	-----	51.6	51.4	56.0	96	0	571	544	27
数学IA	100	51.1	49.7	62.6	-----	52.2	51.5	58.5	100	0	153678	137376	16302
数学IIBC	100	53.4	51.9	65.8	-----	52.2	51.4	58.8	100	0	150010	133797	16213
数学①②	200	105.0	102.1	128.6	-----	52.2	51.4	58.8	200	0	149876	133669	16207
国語	200	116.7	114.9	132.5	-----	50.5	49.9	55.3	200	0	141455	126888	14567
物理基礎	50	19.4	19.4	21.2	-----	45.6	45.5	47.4	50	0	2832	2730	102
物理	100	35.8	34.1	49.5	-----	50.0	49.1	57.5	100	0	102765	91220	11545
化学基礎	50	18.7	18.7	21.1	-----	47.6	47.5	50.2	50	0	7839	7579	260
化学	100	41.0	39.3	54.4	-----	50.0	49.0	58.4	100	0	135128	120119	15009
生物基礎	50	23.1	23.0	25.3	-----	47.1	47.0	49.6	47	0	6242	6036	206
生物	100	53.3	51.7	67.2	-----	50.2	49.3	58.1	100	3	40896	36715	4181
地学基礎	50	20.0	19.7	23.0	-----	43.6	43.2	47.0	47	0	643	581	62
地学	100	44.6	42.9	49.2	-----	51.5	50.6	54.0	100	3	508	375	133
世界史	100	48.0	45.8	57.7	-----	51.5	50.3	56.9	100	3	3279	2675	604
日本史	100	55.1	53.2	65.9	-----	52.2	51.0	58.7	100	6	7517	6412	1105
地理	100	51.6	50.7	60.5	-----	49.9	49.4	55.9	100	0	87906	80099	7807
倫理	100	51.2	48.6	62.3	-----	50.4	48.6	57.8	97	3	6763	5448	1315
政治経済	100	46.2	45.1	54.6	-----	51.3	50.4	57.7	100	0	26674	23514	3160
歴史公共	100	38.7	38.7	40.2	-----	51.3	51.2	52.4	88	0	2268	2217	51
情報I	100	61.3	60.6	67.3	-----	51.8	51.3	56.0	100	0	132704	118695	14009

〈文 系〉

	配 点	平 均 点			標 準 備 差	平 均 備 差 値			最 高 点	最 低 点	人 数		
		全 体	現 役	高 卒		全 体	現 役	高 卒			全 体	現 役	高 卒
英 語	100	54.2	53.3	64.9	-----	49.0	48.6	53.9	100	0	171107	158682	12425
リスニング	100	48.5	48.0	54.7	-----	49.4	49.1	53.2	100	0	168737	156661	12076
英語+L	200	102.9	101.5	120.2	-----	49.1	48.7	53.9	200	4	168527	156463	12064
数学I	100	29.3	29.0	35.9	-----	49.4	49.2	53.6	86	0	1381	1327	54
数学I A	100	40.9	39.9	55.4	-----	46.7	46.1	54.6	100	0	104672	98116	6556
数学II B C	100	42.7	41.6	57.7	-----	46.5	46.0	54.5	100	0	94033	87897	6136
数学①②	200	84.9	82.9	114.1	-----	46.5	45.9	54.8	200	0	93899	87766	6133
国 語	200	113.8	112.9	125.7	-----	49.6	49.3	53.2	200	0	171050	158630	12420
物理基礎	50	25.3	24.7	28.3	-----	51.7	51.1	54.8	50	0	7286	6064	1222
物理	100	24.1	22.9	34.1	-----	43.6	42.9	49.1	95	0	443	394	49
化学基礎	50	21.2	20.8	27.6	-----	50.3	49.9	57.4	50	0	60927	57488	3439
化学	100	31.6	31.1	39.1	-----	44.1	43.8	48.8	79	2	572	539	33
生物基礎	50	25.9	25.7	31.1	-----	50.3	50.0	56.0	50	0	87342	83289	4053
生物	100	41.5	41.1	48.0	-----	43.4	43.2	47.1	89	0	992	937	55
地学基礎	50	25.8	25.5	29.4	-----	50.1	49.8	54.2	50	0	36312	33722	2590
地学	100	30.3	29.9	32.6	-----	44.0	43.7	45.2	78	0	126	108	18
世界史	100	45.2	44.2	57.5	-----	49.9	49.4	56.8	100	0	54508	50403	4105
日本史	100	51.2	50.4	63.3	-----	49.8	49.3	57.1	100	0	89630	83878	5752
地 理	100	52.1	50.8	61.7	-----	50.3	49.4	56.7	100	0	17972	15852	2120
倫 理	100	50.3	49.5	62.6	-----	49.8	49.3	57.9	97	3	15556	14564	992
政治経済	100	44.1	43.6	54.0	-----	49.6	49.2	57.2	100	0	83366	79189	4177
地歴公共	100	35.4	35.3	40.6	-----	48.7	48.6	52.7	84	0	2251	2209	42
情報I	100	55.6	55.0	63.9	-----	47.7	47.3	53.6	100	0	98655	92854	5801

◆教科科目別設問別成績表

〈英語（リーディング）〉

設問 ト-別	設 問 内 容	配点	平 均 点					標 準 偏 差	最 高 点	最 低 点	人 数		
			全 体	現 役	高 卒	卒-現	卒-現				全 体	現 役	高 卒
		100	56.4	55.3	68.6	+13.3	21.9	100	0	326260	297469	28791	
1	読解問題－案内	6	4.5	4.4	4.9	+0.5	1.7	6	0	326260	297469	28791	
2	読解問題－ブログ	12	6.9	6.7	8.3	+1.6	3.3	12	0	326260	297469	28791	
3	読解問題－ストーリー	9	7.0	6.9	7.8	+0.9	2.7	9	0	326260	297469	28791	
4	読解表現融合問題－レポート推敲	12	7.7	7.5	9.1	+1.6	3.7	12	0	326260	297469	28791	
5	読解問題－メール	16	9.1	8.9	11.0	+2.1	4.6	16	0	326260	297469	28791	
6	読解問題－物語文	12	6.4	6.2	7.6	+1.4	4.1	12	0	326260	297469	28791	
7	読解問題－論説文	16	8.4	8.2	11.0	+2.8	5.5	16	0	326260	297469	28791	
8	読解表現融合問題－レポート作成	17	6.5	6.3	8.8	+2.5	4.8	17	0	326260	297469	28791	

〈英語（リスニング）〉

設問 ト-別	設 問 内 容	配点	平 均 点					標 準 偏 差	最 高 点	最 低 点	人 数		
			全 体	現 役	高 卒	卒-現	卒-現				全 体	現 役	高 卒
		100	49.5	48.8	57.3	+8.5	16.4	100	0	321152	293403	27749	
1	短文発話内容一致問題	28	16.8	16.6	19.2	+2.6	6.1	28	0	321152	293403	27749	
2	対話文イラスト選択問題	12	9.3	9.2	10.0	+0.8	3.3	12	0	321152	293403	27749	
3	対話文質問選択問題	18	8.1	8.0	9.7	+1.7	4.5	18	0	321152	293403	27749	
4	モノローグ型中文内容把握問題	12	5.7	5.6	6.4	+0.8	3.3	12	0	321152	293403	27749	
5	講義・討論型長文内容把握問題	16	5.5	5.4	6.9	+1.5	4.0	16	0	321152	293403	27749	
6	会話長文質問選択問題	14	4.1	4.0	5.1	+1.1	3.6	14	0	321152	293403	27749	

〈数 学 I〉

設問 ト-別	設 問 内 容	配点	平 均 点					標 準 偏 差	最 高 点	最 低 点	人 数		
			全 体	現 役	高 卒	卒-現	卒-現				全 体	現 役	高 卒
		100	30.3	30.0	37.2	+7.2	15.7	96	0	1952	1871	81	
①①	対称式の計算、絶対値を含む不等式	10	4.9	4.9	5.3	+0.4	2.6	10	0	1952	1871	81	
②	集合の包含関係	10	4.9	4.8	5.4	+0.6	2.5	10	0	1952	1871	81	
全体		20	9.8	9.7	10.7	+1.0		20	0	1952	1871	81	
②	余弦定理、三角形の面積、正弦定理	30	6.3	6.2	7.9	+1.7	6.1	30	0	1952	1871	81	
③①	2次関数のグラフ、平行移動	15	4.8	4.7	6.6	+1.9	4.1	15	0	1952	1871	81	
②	日常の問題、2次関数の最大・最小	15	2.4	2.4	3.9	+1.5	3.1	15	0	1952	1871	81	
全体		30	7.2	7.1	10.4	+3.3		30	0	1952	1871	81	
④	散布図、相関係数、仮説検定	20	7.0	7.0	8.1	+1.1	4.4	20	0	1952	1871	81	

〈数学 I A〉

設問 ト-別	設 問 内 容	配点	平 均 点					標 準 偏 差	最 高 点	最 低 点	人 数		
			全 体	現 役	高 卒	卒-現	卒-現				全 体	現 役	高 卒
		100	47.0	45.6	60.5	+14.9	18.3	100	0	258350	235492	22858	
①①	対称式の計算、絶対値を含む不等式	10	6.9	6.8	7.7	+0.9	2.1	10	0	258350	235492	22858	
②	余弦定理、三角形の面積	20	10.2	9.9	13.4	+3.5	6.1	20	0	258350	235492	22858	
全体		30	17.1	16.7	21.1	+4.4		30	0	258350	235492	22858	
②①	日常の問題、2次関数の最大・最小	15	7.4	7.1	9.8	+2.7	4.9	15	0	258350	235492	22858	
②	散布図、相関係数、仮説検定	15	9.1	9.0	10.8	+1.8	3.9	15	0	258350	235492	22858	
全体		30	16.5	16.1	20.6	+4.5		30	0	258350	235492	22858	
③	角の二等分線、方べきの定理	20	6.6	6.3	9.7	+3.4	4.5	20	0	258350	235492	22858	
④	さいころに関する確率、期待値	20	6.8	6.6	9.0	+2.4	3.9	20	0	258350	235492	22858	

〈数学 II B C〉

設問 ト-別	設 問 内 容	配点	平 均 点					標 準 偏 差	最 高 点	最 低 点	人 数		
			全 体	現 役	高 卒	卒-現	卒-現				全 体	現 役	高 卒
		100	49.2	47.8	63.6	+15.8	18.8	100	0	244043	221694	22349	
①	常用対数、桁数と最高位の数	15	10.6	10.4	12.5	+2.1	3.9	15	0	244043	221694	22349	
②	直線、円、領域と最小値	15	7.9	7.7	9.4	+1.7	3.2	15	0	244043	221694	22349	
③	方程式の解、接線の方程式、面積	22	10.5	10.1	13.7	+3.6	4.9	22	0	244043	221694	22349	
④	等差数列、等比数列、和と一般項	16	7.2	6.9	10.1	+3.2	4.2	16	0	223566	202089	21477	
⑤	正規分布、母比率の信頼区間	16	7.2	7.1	8.9	+1.8	3.9	16	0	158519	148393	10126	
⑥	内分点、交点、内積、面積比	16	7.1	6.8	9.8	+3.0	4.3	16	0	215628	194800	20828	
⑦	極形式、複素数平面上の円	16	7.0	6.6	9.5	+2.9	4.0	16	0	96515	84720	11795	

〈国 語〉

設問 ト-別	設 問 内 容	配点	平 均 点					標 準 偏 差	最 高 点	最 低 点	人 数		
			全 体	現 役	高 卒	卒-現	卒-現				全 体	現 役	高 卒
		200	115.1	113.8	129.4	+15.6	32.7	200	0	312505	285518	26987	
1	現代文「論理的文章」	45	26.5	26.3	29.4	+3.1	8.9	45	0	312505	285518	26987	
2	現代文「文学的文章」	45	30.1	29.8	33.7	+3.9	10.9	45	0	312505	285518	26987	
3	現代文「図表と資料」	20	15.1	15.0	15.7	+0.7	5.2	20	0	312505	285518	26987	
4	古文「紀行文」「和歌集」「歌論」	45	19.7	19.4	23.1	+3.7	10.7	45	0	312505	285518	26987	
5	漢文「史伝」	45	23.7	23.4	27.5	+4.1	11.9	45	0	312505	285518	26987	

〈物理基礎〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		50	23.7	23.1	27.7	+4.6	9.6	50	0	10118	8794	1324
1	各分野の基本事項	16	5.6	5.3	7.4	+2.1	4.2	16	0	10118	8794	1324
2	運動の法則・力学的エネルギー	16	7.9	7.7	9.2	+1.5	4.1	16	0	10118	8794	1324
3	電気とエネルギー	18	10.2	10.1	11.2	+1.1	4.4	18	0	10118	8794	1324

〈生物基礎〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		50	25.7	25.5	30.8	+5.3	8.9	50	0	93584	89325	4259
1	代謝・ゲノム	18	9.2	9.1	11.2	+2.1	4.4	18	0	93584	89325	4259
2	血液凝固・体温調節	16	8.1	8.0	10.0	+2.0	4.3	16	0	93584	89325	4259
3	植生の調査・生態系	16	8.5	8.4	9.6	+1.2	3.5	16	0	93584	89325	4259

〈物理〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	35.8	34.1	49.4	+15.3	18.2	100	0	103208	91614	11594
1	各分野の基本事項	25	9.7	9.2	14.1	+4.9	6.3	25	0	103208	91614	11594
2	単振動	25	8.9	8.5	12.3	+3.8	6.2	25	0	103208	91614	11594
3	ドブラー効果	25	10.1	9.8	12.4	+2.6	5.7	25	0	103208	91614	11594
4	コンデンサーを含む直流回路	25	7.0	6.5	10.6	+4.1	6.1	25	0	103208	91614	11594

〈生物〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	53.0	51.4	66.9	+15.5	17.5	100	0	41888	37652	4236
1	刺激の受容	19	11.0	10.7	13.5	+2.8	4.7	19	0	41888	37652	4236
2	細胞膜・呼吸と発酵	19	8.3	8.0	10.9	+2.9	4.8	19	0	41888	37652	4236
3	植物の進化と系統・連鎖と組換え	23	12.4	12.1	15.2	+3.1	5.4	23	0	41888	37652	4236
4	DNAの複製	21	12.8	12.4	15.9	+3.5	5.6	21	0	41888	37652	4236
5	ショウジョウバエの発生	18	8.5	8.2	11.5	+3.3	4.1	18	0	41888	37652	4236

〈化学基礎〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		50	20.9	20.6	27.2	+6.6	9.1	50	0	68766	65067	3699
1	物質の構成、物質の変化	30	13.2	13.0	17.0	+4.0	6.1	30	0	68766	65067	3699
2	金属の性質、化学反応と量的関係	20	7.7	7.6	10.1	+2.5	4.7	20	0	68766	65067	3699

〈地学基礎〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		50	25.7	25.4	29.3	+3.9	8.9	50	0	36955	34303	2652
1	地球の形・地震・地層と化石	23	13.7	13.6	15.3	+1.7	5.1	23	0	36955	34303	2652
2	太陽放射と地球放射・海洋	14	5.5	5.5	6.5	+1.0	3.6	14	0	36955	34303	2652
3	銀河系・星団と星雲	7	3.8	3.8	4.3	+0.5	2.6	7	0	36955	34303	2652
4	貿易風・エルニーニョ現象	6	2.6	2.5	3.1	+0.6	2.2	6	0	36955	34303	2652

〈化学〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	41.0	39.3	54.4	+15.1	15.9	100	0	135700	120658	15042
1	物質の構成、結晶	20	11.6	11.2	14.6	+3.4	4.8	20	0	135700	120658	15042
2	気体、希薄溶液の性質	20	5.7	5.3	8.6	+3.3	4.3	20	0	135700	120658	15042
3	エネルギー、電池、反応速度、平衡	20	7.2	6.8	10.3	+3.5	4.8	20	0	135700	120658	15042
4	無機物質	20	7.1	6.8	9.8	+3.0	4.8	20	0	135700	120658	15042
5	物質の分離・精製	20	9.3	9.1	11.1	+2.0	4.4	20	0	135700	120658	15042

〈地学〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	41.7	40.0	47.3	+7.3	18.9	100	0	634	483	151
1	地球の概観、アイススタシー	19	7.6	7.2	8.9	+1.7	5.1	19	0	634	483	151
2	火山とマグマ、火山災害	15	7.5	7.0	9.1	+2.1	4.7	15	0	634	483	151
3	地質柱状図、先カンブリア時代	20	7.2	6.9	8.3	+1.4	4.4	20	0	634	483	151
4	高層天気図、局地風、台風	23	10.9	10.7	11.5	+0.8	5.7	23	0	634	483	151
5	太陽、恒星の進化、宇宙の膨張	23	8.5	8.2	9.5	+1.3	6.1	23	0	634	483	151

〈世界史〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	45.3	44.3	57.6	+13.3	18.1	100	0	57787	53078	4709
1	広場や公園が果たした役割	25	11.3	11.1	14.0	+2.9	5.4	25	0	57787	53078	4709
2	遊牧民の活動	18	7.3	7.1	9.6	+2.5	4.2	18	0	57787	53078	4709
3	大規模な建造物	17	7.3	7.1	9.6	+2.5	4.6	17	0	57787	53078	4709
4	世界史上の戦争や紛争	18	8.9	8.7	11.1	+2.4	4.5	18	0	57787	53078	4709
5	特定の主題に関する考察	22	10.6	10.3	13.3	+3.0	5.5	22	0	57787	53078	4709

〈日本史〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	51.5	50.6	63.7	+13.1	16.5	100	0	97147	90290	6857
1	国民国家と教育	25	12.6	12.4	15.3	+2.9	5.2	25	0	97147	90290	6857
2	古代～近世の女性	19	11.6	11.4	14.1	+2.7	4.7	19	0	97147	90290	6857
3	古代の政務・儀式	19	10.3	10.1	13.0	+2.9	4.8	19	0	97147	90290	6857
4	中世の禅宗	19	9.3	9.2	11.4	+2.2	4.5	19	0	97147	90290	6857
5	江戸時代の外交・貿易	18	7.7	7.5	9.8	+2.3	4.1	18	0	97147	90290	6857

〈地理〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	51.7	50.7	60.8	+10.1	15.0	100	0	105878	95951	9927
1	貿易・交通・通信	12	4.9	4.8	5.8	+1.0	2.8	12	0	105878	95951	9927
2	自然環境（気候）と災害	13	7.0	6.9	8.4	+1.5	3.6	13	0	105878	95951	9927
3	自然環境（地形）と災害	20	10.8	10.6	13.0	+2.4	4.6	20	0	105878	95951	9927
4	世界の工業	18	9.3	9.1	11.3	+2.2	4.6	18	0	105878	95951	9927
5	アフリカ地誌	17	7.1	6.9	8.5	+1.6	3.9	17	0	105878	95951	9927
6	地域的課題の探究	20	12.6	12.5	13.8	+1.3	4.6	20	0	105878	95951	9927

〈倫理〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	50.6	49.2	62.4	+13.2	15.1	97	3	22319	20012	2307
1	民主政治	12	7.6	7.5	8.1	+0.6	2.2	12	0	22319	20012	2307
2	公共的な空間と人間のかかわり	13	9.4	9.3	10.7	+1.4	3.2	13	0	22319	20012	2307
3	西洋の源流思想	18	10.3	10.1	12.4	+2.3	4.3	18	0	22319	20012	2307
4	近代西洋思想	18	6.0	5.7	8.3	+2.6	4.1	18	0	22319	20012	2307
5	日本思想	18	9.8	9.6	12.3	+2.7	4.1	18	0	22319	20012	2307
6	現代の諸課題と倫理	21	7.4	7.0	10.6	+3.6	5.1	21	0	22319	20012	2307

〈政治・経済〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	44.6	44.0	54.2	+10.2	13.0	100	0	110040	102703	7337
1	民主政治	12	7.8	7.7	8.8	+1.1	2.4	12	0	110040	102703	7337
2	公共的な空間と人間のかかわり	13	9.1	9.0	10.4	+1.4	3.3	13	0	110040	102703	7337
3	統治機構	18	8.9	8.7	10.7	+2.0	3.9	18	0	110040	102703	7337
4	国民所得と財政・金融	19	5.9	5.8	7.4	+1.6	4.0	19	0	110040	102703	7337
5	国際平和に向けた日本の役割	19	8.5	8.3	10.2	+1.9	4.0	19	0	110040	102703	7337
6	国際経済	19	4.6	4.4	6.7	+2.3	3.7	19	0	110040	102703	7337

〈地理総合／歴史総合／公共〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	37.1	37.0	40.4	+3.4	13.1	88	0	4519	4426	93
1	地－貿易・交通・通信	12	3.3	3.3	4.0	+0.7	2.6	12	0	3408	3344	64
2	地－自然環境（気候）と災害	13	5.2	5.1	6.1	+1.0	3.4	13	0	3408	3344	64
3	地－生活文化の多様性	13	6.0	6.0	6.2	+0.2	3.1	13	0	3408	3344	64
4	地－愛知県蒲郡市の地域調査	12	4.5	4.5	4.8	+0.3	3.1	12	0	3408	3344	64
全体		50	19.0	18.9	21.0	+2.1		44	0	3408	3344	64
1	歴－国民国家と教育	25	10.8	10.7	13.6	+2.9	5.1	25	0	1976	1929	47
2	歴－広場や公園の役割	25	7.8	7.8	8.5	+0.7	4.3	25	0	1976	1929	47
全体		50	18.6	18.5	22.0	+3.5		47	0	1976	1929	47
1	公－民主政治	12	6.5	6.5	7.0	+0.5	2.8	12	0	3431	3369	62
2	公－経済活動と市場	12	4.2	4.2	4.9	+0.7	3.1	12	0	3431	3369	62
3	公－国際社会	13	3.8	3.7	4.0	+0.3	3.3	13	0	3431	3369	62
4	公－公共的な空間と人間のかかわり	13	4.8	4.8	6.2	+1.4	3.9	13	0	3431	3369	62
全体		50	19.3	19.2	22.2	+3.0		50	0	3431	3369	62

〈情報 I〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	58.8	58.1	66.3	+8.2	14.0	100	0	231359	211549	19810
1	個人情報、データ分析、誤差等	20	10.4	10.3	12.2	+1.9	3.8	20	0	231359	211549	19810
2	デジタル化、プレゼンテーション	30	19.2	19.0	21.6	+2.6	5.8	30	0	231359	211549	19810
3	ジャンケンゲームのプログラム	25	16.1	16.0	17.9	+1.9	4.8	25	0	231359	211549	19810
4	通信プロトコル、経路制御	25	13.1	12.9	14.6	+1.7	4.3	25	0	231359	211549	19810

◆設問別正答率表

〈英語(リーディング)〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	78.5
	2	61.5
	3	83.8
トータル		74.6
2	4	74.3
	5	75.2
	6	54.9
	7	24.1
トータル		57.2
3	8	88.1
	9-12	64.2
	13	81.8
トータル		78.0
4	14	62.8
	15	74.7
	16	64.4
	17	53.5
トータル		63.8
5	18	65.7
	19	61.4
	20	46.3
	21	61.2
	22	73.9
	23	29.8
トータル		56.4
6	24-27	40.5
	28	66.9
	29	67.2
	30-31	37.1
トータル		52.9
7	32	55.8
	33	58.9
	34-35	45.9
	36	46.5
トータル		59.0
8	37	59.0
	38	40.8
	39	44.1
	40-41	24.3
トータル		41.9
	42	41.9
	43	43.0
	44	34.7
	トータル	

〈英語(リスニング)〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	37.0
	2	80.7
	3	60.6
	4	37.7
	5	79.8
	6	90.4
	7	34.3
	8	68.7
トータル		61.1
2	9	75.2
	10	74.9
	11	82.7
トータル		77.6
3	12	31.5
	13	51.0
	14	48.3
	15	35.0
	16	54.0
トータル		45.2
4	18-21	35.7
	22	50.7
	23	60.1
	24	60.8
	25	20.5
	26	58.3
トータル		47.7
5	27	50.9
	28-29	44.0
	30-31	36.8
	32	20.1
トータル		30.9
6	33	30.9
	34	44.2
	35	31.9
	36	12.9
トータル		31.4
トータル		30.1

〈数学 I〉

問題番号	解答番号	正答率	
①	ア-イ	77.2	
	ウ	78.8	
	エ	75.9	
	オ-カ	70.4	
	キ	15.4	
	ク-コ	5.1	
	トータル		53.8
	②	サ	65.8
		シ	74.1
		ス	24.1
セ		40.4	
ソ		38.9	
トータル		48.7	
総トータル		51.5	
②	ア-ウ	48.7	
	エ-カ	29.0	
	キ	34.4	
	ク-サ	10.4	
	シ-ス	23.0	
	セ-チ	12.4	
	ツ	22.0	
	テ	14.5	
	ト-ナ	3.3	
	トータル		22.0
③	ア-エ	58.6	
	オ-キ	27.4	
	ク-ケ	49.1	
	コ-サ	34.1	
	シ	32.1	
	ス-セ	9.0	
	ソ-タ	14.1	
	トータル		32.1
	④	チ	20.7
		ツ	35.0
テ-ト		17.7	
ナ-ネ		7.6	
ノ-ハ		12.4	
ヒ-フ		7.1	
ヘ		11.9	
ホ		16.3	
トータル		16.1	
総トータル		23.0	
④	ア	53.6	
	イ	74.1	
	ウ	39.7	
	エ	39.2	
	オ	56.5	
	カ	49.2	
	キ	40.2	
	ク	33.4	
	ケ	12.9	
	コ-ス	6.0	
セ	16.5		
トータル		38.3	

〈数学 I A〉

問題番号	解答番号	正答率	
①	ア-イ	94.3	
	ウ	96.3	
	エ	94.5	
	オ-カ	91.7	
	キ	41.0	
	ク-コ	21.0	
	トータル		73.1
	②	サ-ス	85.1
		セ-タ	72.7
		チ-ト	52.5
ナ-ニ		59.3	
ヌ-ハ		56.7	
ヒ		33.0	
フ		24.0	
トータル		54.8	
総トータル		63.2	
②	ア	63.1	
	イ	70.9	
	ウ-エ	62.2	
	オ-ク	51.4	
	ケ-コ	54.0	
	サ-シ	37.4	
	ス	27.9	
	セ	31.3	
	トータル		49.8
	③	ソ	84.3
タ		92.2	
チ		64.7	
ツ		66.9	
テ		84.6	
ト		74.3	
ナ-ネ		30.3	
ノ		34.8	
トータル		66.5	
総トータル		58.1	
③	ア	88.7	
	イ	55.3	
	ウ-エ	57.3	
	オ-キ	43.0	
	ク	30.6	
	ケ	40.1	
	コ-シ	13.8	
	ス-ソ	10.0	
	タ-テ	7.7	
	ト-ヌ	2.4	
トータル		34.9	
④	ア-イ	85.3	
	ウ-オ	68.8	
	カ-キ	72.9	
	ク-ケ	52.3	
	コ-サ	22.9	
	シ-セ	18.4	
	ソ-チ	4.9	
	ツ-ニ	1.6	
	ヌ-ヒ	0.6	

問題番号	解答番号	正答率
④	トータル	36.4

〈数学 II B C〉

問題番号	解答番号	正答率
①	ア-イ	95.6
	ウ-エ	77.5
	オ	87.3
	カ	90.5
	キ	79.2
	ク-ケ	77.7
	コ	69.7
	サ-ス	39.3
	セ	76.6
	ソ-タ	78.3
チ	84.4	
ツ	69.6	
テ	69.1	
ト	22.4	
トータル		72.7
②	ア-イ	93.8
	ウ	89.8
	エ	82.6
	オ	90.5
	カ-キ	86.2
	ク	46.9
	ケ-サ	58.5
	シ-ソ	11.9
	タ	53.4
	チ	40.7
ツ-テ	10.1	
トータル		60.4
③	ア-イ	92.2
	ウ-エ	93.0
	オ-カ	75.0
	キ	74.2
	ク-コ	64.5
	サ-シ	44.5
	ス-ソ	17.1
	タ-チ	71.3
	ツ	64.4
	テ-ナ	25.9
ニ	45.4	
ヌ-ネ	22.8	
ノ	13.8	
ハ-フ	6.1	
トータル		50.7
④	ア-ウ	88.3
	エ-カ	87.4
	キ	83.6
	ク-ケ	78.4
	コ	52.1
	サ	47.0
	シ	42.5
	ス-ソ	33.7
	タ	37.8
	チ	44.1
ツ-ニ	21.2	
ヌ	28.2	
ネ-ノ	14.0	

〈数学ⅡBC〉

問題番号	解答番号	正答率
4	ハ	10.7
	トータル	47.8
5	ア-イ	91.9
	ウ-エ	84.6
	オ	63.9
	カ-コ	65.5
	サ-シ	36.2
	ス	22.1
	セ	24.6
	ソ	56.3
	タ-チ	47.3
	ツ	28.5
	テ	25.5
	トータル	49.7
	6	ア-イ
ウ-エ		89.8
オ-キ		72.2
ク-コ		69.8
サ-シ		70.2
ス-セ		31.1
ソ-タ		33.0
チ-テ		35.1
ト-ナ		30.4
ニ-ヌ		19.3
ネ-ヒ	2.0	
トータル	49.2	
7	ア-イ	86.5
	ウ	84.2
	エ	77.1
	オ	71.3
	カ	48.5
	キ	55.8
	ク	36.1
	ケ	46.3
	コ-セ	31.4
	ソ	12.5
タ-ヌ	3.7	
トータル	50.3	

〈国語〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	63.8
	2	63.6
	3	87.6
	4	55.8
	5	67.4
	6	51.7
	7	77.7
	8	44.1
	9	71.7
	10	41.5
トータル	62.5	
2	11	63.1
	12	79.9
	13	69.0
	14	76.2
	15	61.5
	16	67.3
	17	53.8
トータル	67.3	
3	18	85.3
	19	84.9
	20	61.3
	21	73.1
	22	83.8
トータル	77.7	
4	23	32.8
	24	68.6
	25	61.4
	26	35.5
	27	31.7
	28	58.5
	29	31.2
30	42.5	
トータル	45.3	
5	31	70.6
	32	66.7
	33	30.9
	34	70.1
	35	55.2
	36	21.9
	37	58.2
	38	49.4
トータル	52.9	

〈物理基礎〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	29.8
	2-4	15.3
	5	37.8
	6	37.8
	7	55.4
	トータル	35.2
	8	62.1
2	9	70.8
	10	39.2
	11	40.2
	12	25.8
	トータル	47.7
3	13	77.6
	14	82.1
	15	22.2
	16	48.0
	トータル	57.5

〈物理〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	90.3
	2	39.2
	3	51.1
	4	23.2
	5	27.7
	6	33.4
トータル	44.1	
2	7	40.0
	8	14.1
	9	63.7
	10	44.3
	11	26.2
	12	24.4
トータル	35.5	
3	13	13.3
	14	83.6
	15	91.4
	16	26.5
	17	40.3
	18	34.3
トータル	48.2	
4	19	32.8
	20	52.7
	21	35.2
	22	10.6
	23	22.7
トータル	30.8	

〈化学基礎〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	51.6
	2	79.1
	3	20.7
	4	60.2
	5	61.4
	6	40.0
	7	48.6
	8	26.1
	9	36.8
	10	44.1
トータル	44.1	
2	11	74.9
	12	46.1
	13	36.0
	14	22.1
	15	13.5
トータル	38.5	

〈化学〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	82.6
	2	35.5
	3	53.1
	4	60.2
	5	61.2
	6	64.8
	7	52.3
トータル	58.5	
2	8	43.5
	9	44.4
	10	17.4
	11	19.0
	12	19.6
13	25.5	
トータル	28.2	
3	14	41.5
	15	33.9
	16	44.8
	17-19	26.9
	20	33.3
	21	35.6
トータル	36.0	
4	22	34.8
	23	17.0
	24	39.2
	25	53.0
	26	36.7
	27	29.6
トータル	35.1	
5	28	80.8
	29	41.1
	30	38.7
	31	36.6
	32	57.0
	33	32.0
トータル	47.7	

〈生物基礎〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	50.2
	2	50.3
	3	59.1
	4	43.6
	5	64.2
	6	40.0
	トータル	51.2
2	7	51.6
	8	43.6
	9	65.2
	10	53.0
	11	41.0
	トータル	50.9
3	12	48.7
	3	67.9
	14	49.6
	15	87.9
	16	5.0
	トータル	51.8

〈生物〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	58.0
	2	46.6
	3	46.7
	4	46.9
	5	73.0
	トータル	54.2
2	6	43.0
	7	34.8
	8	41.7
	9	42.4
	10	57.0
	トータル	43.8
3	11	47.9
	12	86.5
	13	44.9
	14	62.9
	15	30.9
	16	48.8
	トータル	53.6
4	17	95.7
	18	63.0
	19	44.0
	20	48.9
	21	55.4
	22	62.7
	トータル	61.6
5	23	80.6
	24	65.0
	25	19.9
	26	61.1
	27	23.5
	トータル	50.0

〈地学基礎〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	45.8
	2	49.4
	3	91.7
	4	64.3
	5	75.6
	6	50.9
	7	40.2
	トータル	59.7
2	8	28.7
	9	58.1
	10	23.3
	11	41.4
		トータル
3	12	66.3
	13	46.2
		トータル
4	14	42.0
	15	43.8
	トータル	42.9

〈地学〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	44.2
	2	37.4
	3	48.1
	4	35.6
	5	36.0
	トータル	40.3
2	6	55.4
	7	42.9
	8	60.3
	トータル	37.5
3	9	49.0
	10	28.5
	11	29.8
	12	35.5
	13	41.0
	14	49.5
	トータル	36.9
4	15	36.9
	16	18.9
	17	56.2
	18	40.7
	19	38.0
	20	60.1
	トータル	47.2
5	21	69.2
	22	30.4
	23	36.4
	24	50.0
	25	47.2
	26	32.0
	トータル	26.0
	トータル	37.0

〈世界史〉

問題番号	解答番号	正答率	
1	1	59.4	
	2	39.5	
	3	72.1	
	4	32.4	
	5	37.9	
	6	64.7	
	7	25.7	
	8	36.6	
	トータル	46.0	
2	9	46.9	
	10	69.9	
	11	28.0	
	12	19.5	
	13	22.0	
	14	55.7	
	トータル	40.3	
3	15	48.0	
	16	61.6	
	17	17.8	
	18	46.3	
	19	41.4	
	トータル	43.0	
4	20	59.3	
	21	69.2	
	22	19.3	
	23	61.2	
	24	59.3	
	トータル	28.3	
5	25	49.4	
	26	36.9	
	27	46.3	
	28	34.2	
	29	51.5	
	30	34.1	
	31	63.8	
	32	67.9	
		トータル	47.8

〈日本史〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	69.8
	2	51.8
	3	73.3
	4	71.6
	5	52.7
	6	26.4
	7	25.8
	8	39.3
	トータル	51.3
2	9	76.4
	10	65.5
	11	63.0
	12	48.4
	13	57.3
	14	54.5
	トータル	60.9
3	15	76.1
	16	47.4
	17	31.3
	18	70.2
	19	53.2
	20	48.3
	トータル	54.4
4	21	64.9
	22	64.8
	23	40.0
	24	55.0
	25	42.6
	26	32.8
	トータル	50.0
5	27	44.8
	28	74.1
	29	46.7
	30	22.0
	31	38.6
	32	30.0
	トータル	42.7

〈地 理〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	69.9
	2	54.2
	3	23.4
	4	14.9
	トータル	40.6
2	5	54.2
	6	61.2
	7	61.5
	8	36.7
	トータル	53.4
3	9	64.6
	10	76.6
	11	57.8
	12	20.9
	トータル	52.7
4	15	75.1
	16	32.6
	17	39.9
	18	62.0
	トータル	51.8
5	20	44.8
	21	29.9
	22	22.4
	23	39.0
	トータル	40.1
6	25	68.5
	26	81.3
	27	71.0
	28	44.0
	トータル	61.8

〈倫 理〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	10.6
	2	91.6
	3	92.3
	4	58.2
	トータル	63.2
2	5	45.6
	6	79.4
	7	89.0
	8	70.7
	トータル	71.2
3	9	38.4
	10	50.3
	11	26.5
	12	80.2
	トータル	57.5
4	15	24.7
	16	39.2
	17	32.0
	18	25.1
	トータル	33.3
5	21	53.7
	22	85.4
	23	21.9
	24	29.5
	トータル	54.6
6	27	35.9
	28	43.3
	29	33.6
	30	22.7
	トータル	35.0

〈政治・経済〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	14.4
	2	89.8
	3	91.1
	4	64.2
	トータル	64.9
2	5	45.1
	6	76.9
	7	87.1
	8	65.3
	トータル	68.6
3	9	60.1
	10	18.4
	11	33.2
	12	35.0
	トータル	49.2
4	15	26.4
	16	17.9
	17	37.8
	18	27.9
	トータル	30.6
5	21	40.6
	22	74.0
	23	6.0
	24	59.3
	トータル	46.7
6	27	15.5
	28	17.1
	29	36.1
	30	20.2
	トータル	24.2

〈地理総合／歴史総合／公共〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	36.9
	2	35.4
	3	25.9
	4	12.6
	トータル	27.7
2	5	28.1
	6	46.7
	7	51.0
	8	29.5
	トータル	38.8
3	9	85.1
	10	37.2
	11	39.7
	12	23.8
	トータル	46.5
4	13	39.8
	14	48.2
	15	34.6
	16	27.3
	トータル	37.5
	総トータル	37.6
1	1	59.0
	2	53.6
	3	56.2
	4	61.7
	トータル	43.8
2	9	30.7
	10	31.2
	11	65.5
	12	18.9
	トータル	32.2
	総トータル	38.0
1	1	9.8
	2	79.9
	3	81.9
	4	46.0
	トータル	54.4
2	5	46.0
	6	29.5
	7	36.4
	8	27.2
	トータル	34.8
3	9	35.8
	10	31.4
	11	28.2
	12	17.7
	トータル	28.3

問題番号	解答番号	正答率
4	13	26.6
	14	42.3
	15	45.4
	16	32.2
	トータル	36.6
	総トータル	38.5

〈情報 I〉

問題番号	解答番号	正答率
1	ア	57.2
	イ	64.3
	ウ	33.6
	エ	82.9
	オ	76.0
	カ	49.6
	キ	30.2
	ク	72.5
	ケ	51.6
	コ	37.9
	サ	26.7
	トータル	53.0
2	ア	66.1
	イ	52.2
	ウ	35.2
	エ	33.3
	オ	55.5
	カ	90.4
	キ	93.9
	ク	78.0
	ケ	87.6
	コ	96.7
	サ	94.6
	トータル	68.4
3	ア	90.9
	イ	94.2
	ウ	90.5
	エ	92.1
	オ	88.8
	カ	85.6
	キ	72.1
	ク	64.7
	ケ	63.3
	コ	66.6
	サ	63.4
	トータル	67.6
4	ア	75.3
	イ	71.8
	ウ	67.5
	エ	92.2
	オ	16.7
	カ	43.1
	キ	53.3
	トータル	53.3

学習対策

ここでは、教科・科目ごとにポイントとなる問題を取り上げ、その問題の概要と正解を導くために必要な力についてコメントをしています。今後の学習のアドバイス等も記してありますので、自分が受験した教科・科目を確認して復習に役立てましょう。

なお、大問ごとの講評、学習のアドバイスは  **模試ナビ** 河合塾 全統模試 学習ナビゲーター に掲載していますので、確認をしてください。

英語

【リーディング】

本文に書かれていない情報、本文と内容が異なる情報を排除する

第2問 読解問題(ブログ)

今回の第2問では、2025年度共通テスト本試験の第2問と同じ形式の問題を出題した。共通テストの第1問から第4問は、第5問以降に比べて読む英文の量が少なめなので、「本文の中から問われている情報をいかにうまく探すか」という点に注意しさえすれば、悪くても6～7割の得点が取れるはずである。しかし、今回の第2問では、第1回共通テスト模試の第2問と同様に、問4の正答率が4割に満たないと思われる。第2問で十分な得点が取れないようでは、その他の大問でよい点数を取る可能性は低い。

第2問は、「ロボットヘルパー」に関するブログを読んで正答を選ぶ問題が4問出題されたが、問4は「ブログの中で述べられていることが書かれている選択肢を選ぶ」という問題で、このブログを正しく読めているかどうかを試される問題だった。この設問では、本文第2段落第1文後半の the biggest problem faced by nursing homes is the lack of staff と類似の表現が使われている①の A lack of nursing homes を選んだ受験生の割合が高かったものと思われる。不足しているのは「介護施設における働き手の数」であって、「介護施設そのものの数」ではないのだが、類似の表現を誤読して正解として選んで

しまう傾向が、まだ共通テストの演習の足りない受験生にこの時期には毎年多く見られる。また、第1回の第2問では、「本文にまったく書かれていない内容」の選択肢を3割以上の受験生が選んでいることが判明しているが、今回も②の「ロボットヘルパーの訓練方法」という、「本文にまったく書かれていない内容」の選択肢を選んだ受験生がやはり相当な割合にいるものと思われる。「ロボットヘルパーは訓練すればより多くのことをこなせるようになる」という「常識的な考え」があることは否めないが、今回の第2問の本文にはそのようなことはまったく書かれていないので、「常識をうまく利用する」のは長文読解では役立つ方策の1つではあるが、「常識の使い間違い」をしないようにしたい。

今回の共通テストは夏に行われたので、受験生はまだ語彙力も十分ではないであろうし、誤りの選択肢の除き方の練習も不足している状態だとは思いますが、少なくとも共通テストの中で比較的得点の取りやすい第2問で点数が思うように取れないようでは先行き不安である。次回の共通テスト模試では、ぜひ「本文に書かれていない情報、本文と内容が異なる情報を排除する」という、共通テストの基本的な解き方がもっとうまくできるようになっていることを望む。

【リスニング】

聴き取った情報を図表の情報と統合して判断しよう

第5問 【講義・討論型ワークシート完成・選択問題】 社会的な話題に関する英文を聴き、聴き取った情報を図表から読み取った情報と組み合わせて判断する力を測定する問題

第5問は「楽器」に関する講義を聴き取り、情報を統合し、比較・判断しながらワークシートを完成する問題であった。「聴く力」に加え、「読む力」が要求されており、音声が入りか流れないため、ポーズ時間を活用していかにか素早く問題冊子に印刷されている情報を理解するか、そして講義の概要をいかに的確に記憶するかが鍵となる。特にポイントになった設問は活動1である。

活動1の間27では、ワークシートにある Both the guitar and the sitar に続く表現として、英文前半の They are similar in that they must be carefully tuned to produce the best possible sounds を聴き取り、適切な語句を特定する問題であった。ここでは must be を選択肢の demand に言い換えられるかがポイントとなった。問28～31は、ワークシートにある Guitar に関する設問である。英文後半の because the guitar has a straightforward tuning system, it is easier for new players to learn と、英文中程の the guitar is used mainly for entertainment purposes を聴き取り、問28は easier for new players to learn を simple to learn (for beginners) に、問29は for entertainment purposes を enjoyable situations に、それぞれ言い換えられるかがポイントとなった。一方、Sitar に関しては、英文後半の The sitar, on the other hand, is complex and requires years of practice to play relatively simple music. と、英文中程の the sitar is most often used in religious practices を聴き取り、問30は complex and requires years of practice to play を difficult to play に、問31は in religious practices を religious ceremonies に、それぞれ言い換えられるかがポイントとなった。聴き取った音声を別の表現に言い換える際に、躓きが見られた。

【アドバイス】 音声を聴く前に、状況やワークシート・選択肢・図表を素早く読み、講義とディスカッションの展開を予測し、音声を聴きながら、鍵となるポイントを記憶するようにしよう。

数 学

【数学Ⅰ，数学A】【数学Ⅰ】

2次関数の様々な問題に取り組もう！

【数学Ⅰ・数学A】第2問〔1〕 2次関数

【数学Ⅰ】第3問〔2〕 2次関数

日常の事象を数学的に考察する問題

必答問題である2次関数は、近年の共通テストにおいては難易度の高い出題が続いている。2024年度は座標平面上の2つの動点P、Qに対して、三角形PBQの面積を考察する問題が出題された。点の位置によって場合分けが必要であり難しい。また、2025年度は噴水の水が描く曲線を放物線と見なし、その高さや水の出る位置を考察する問題が出題された。問題の意図を正確に捉えることができればシンプルな2次関数の決定($y=ax^2+bx+c$ の係数 a, b, c を求める問題)に過ぎないが、その読み替えができなかったのであろうか、正答率は芳しくなかったようである。

本問は、ある敷地における花壇の面積を最大にするために、2次関数に置き換えて考察する問題である。(1)は長文から必要な情報をすばやく読み取れるかがポイントである。(i)は $CR \leq CD$ の条件から直ちに求められる。(ii)、(iii)は直角三角形の辺の比に着目すればよい。(iii)も立式さえできれば平方完成の計算は難しくないので、(2)ではさらに、柵を立てる費用の要素が追加され、(ii)では花壇の形状が長方形から台形へと変化するため立式の難易度が上がる。とは言え、図形の形状に着目して立式し、得られた2次方程式の解を求める過程自体は典型的な内容である。実際に、これまで共通テストで出題された日常を題材にした2次関数の問題は、設定こそ複雑であったり難解であったりするものの、肝心の2次関数としての難易度はそれほどでもない。

これまでに実施された共通テストの数学①では、「図形と計量」か「2次関数」の分野で日常の事象を絡めた問題が出題される傾向があり、日常の要素が含まれない場合でも難易度は高めであることが多い。いずれの分野でも、日常の事象を題材にした見慣れない形式の問題だと何をしてよいか分かり辛く、大きな失点に繋がる可能性が高い。普段の演習や模試などで目新しい問題に出会ったときは好機と捉え、分からない箇所が一つもないようになるまでじっくりと復習し、自身の中にある解法の引き出しを増やしてほしい。

【数学Ⅱ，数学B，数学C】

常用対数表の値を利用して、おおよその値を求められるようにしよう！

第1問 指数関数・対数関数

常用対数表を利用して、日常生活にかかわる値を求める問題

本問(2)では、大学入学共通テストの数学において問われる力のうち、

- ・日常生活や社会の問題を数理的にとらえる能力
 - ・焦点化した問題を数・式、表などを活用し、一定の手順に従って数学的に処理する能力
- を測ることを目的とした。

指数関数・対数関数の分野において、常用対数表を利用して日常生活にかかわる値を求める問題は、2025年度本試験で「水草の増え方」を問う内容が、2023年度追試験で「スポーツドリンクの売上本数」を問う内容が、出題されている。

日常生活には指数関数・対数関数に関係するものが多く存在することから、今後も、指数関数・対数関数の分野において、日常生活にかかわる内容が出題されると予想されるので、対策をしておくとうい。

(1)は、日常生活にかかわる内容ではないが、常用対数表を利用して、直接計算するのは大変な、大きな数の計算を行う問題である。最初の **ア**、**イ**、**ウエ** は指数の計算法則、**オ** は対数の計算法則を用いる基礎レベルの計算の設問である。これらの計算は、日常生活にかかわらなくても必要となる力であるから、計算ができていなかった人はしっかり復習、練習しておくとうい。**サ**、**シス** の「最高位の数と桁数」については過去にも出題されているので、**クケ**、**コ** の誘導で解けなかった人は「学習の手引き」や「模試ナビ」で確認しよう。

(2)は、常用対数表を利用して、「人口の推移」について考える問題である。問題文から必要な情報を読み取って、**セ**、**テ** を解こう。また、**ソ**、**タ**、**チ** は対数の計算法則を用いる基礎レベルの計算の設問であった。**ト** は(1)を参考にして解くとよい。

日常生活にかかわる問題を解くための力を養うには、同様の問題に慣れておくとうい。また、共通テストで問われる、「数学的に処理する能力」は、標準レベルの内容によって問われることがほとんどである。他の分野も含めて、標準レベルの問題の中に苦手なもの、まだ解けないものがある人は、それをなくしておこう。

国 語

【現代文】

正解を導き出すには、何に留意すればよいかを見極めよう

第3問 問3

すべての図と資料の内容を踏まえ、空欄に入る言葉を選ぶ問題

25年に実施された大学入学共通テストの第1問・第2問では、複数テキストを組み合わせた問題は出題されなかったが、仮にそうした傾向が続いたとしても、25年から新たに加わった第3問においては、今後も文章だけでなく、図、グラフなどのさまざまな素材を組み合わせた出題が予想される。したがって、これからは複数テキストを組み合わせた問題への対策を怠りなく行う必要がある。その際、重要なのは、正解を導き出すには、何に留意すればよいかを見極める力である。

今回の場合、第3問の問3を正しく答えるには、すべての図と資料の内容を正確に理解するだけでなく、空欄X・Yの前後の文脈を正しく理解する必要がある。たとえば、空欄Yにおいては、直後に「**そんな考え方**(=空欄Yの内容)」を多くの日本人がしているのなら、**あらためることが大切だ**とCさん自身が述べていることに留意できれば、空欄Yには、**多くの日本人が持っていると考えられる間違った考え方**の具体的な内容が入るとことがわかったはずである。したがって、選択肢の中から、その内容が図や資料から読み取ることができ、かつ**あらためるべき間違った考え**であるという二つの条件に合うものを選べば、それが正解ということになる。

こうした手間のかかることを限られた時間で正確に行うには積み重ねが必要である。是非実践的な練習を怠ることなく続けてほしい。

【古文】

学習場面を想定する複数文章の問題への対処法を意識する

第4問 問4

本文とそれに関わる他の文章の内容説明問題

本文とは異なる古文が資料として挙げられ、それらについて議論する生徒たちの会話が展開する。そして、その会話中にいくつかの空欄があり、空欄を埋める適切な内容を選ばせる設問が付いている。共通テストの典型的な出題形式である。今回、空欄Xは、資料Ⅰの和歌を参考にして、本文中の表現を説明する言葉が入る。空欄Yは、資料Ⅱ

理 科

の内容を説明する言葉が入る。空欄Zは、生徒Dの発言を参考にして本文中の和歌の内容を説明する言葉が入る。

最後に置かれることが多い設問で、時間に追われている気分までここに到達すると、新たな古文や、長い会話を読むのに焦るだろう。よって、第一には、最後の設問には十分な時間を残して臨むことを心掛けたい。その上で、生徒の会話や解説文など、そこで示される文章の中から、解答するのに必要な情報をいち早く見つけることを心掛けてほしい。

また、注意すべきこととして、共通テストでは和歌が頻出し、特にこの最後の設問で問われることが多い。和歌に苦手意識を持ち、時間の余裕を持たず、さらに必要な情報を要領よく絞り込むことができないと、苦戦することになるだろう。和歌と時間配分と情報の絞り込みを意識して、演習を積んでほしい。

【漢文】

二つの文章の内容や趣旨を把握する

第5問 問6

本文の内容についての説明問題

本問は、【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】の内容把握を問う問題であるから、本文をそれぞれ丁寧に読解して、内容を確実に捉える必要がある。

【文章Ⅰ】は、モンゴル帝国の太宗が重篤な病に陥った時の逸話である。臣下の耶律楚材は、朝廷の政治が乱れているので、天変が多発して警告を発していると指摘し、恩赦を行えば太宗は健康を回復するはずだと進言する。そこで太宗の認可を得て恩赦を施すと、太宗の病状は良くなったという話である。

【文章Ⅱ】は、宋の景公の「熒惑退舎」の逸話である。【文章Ⅱ】の冒頭に示されている本文への導入の説明を押さえて読解する。子韋は、景公に災いをもたらす位置にある「熒惑」を動かす方法として、大臣、人民、穀物の実りのそれぞれに災いを移し換える提案をしたが、景公はいずれも重要なものとして拒絶した。子韋は景公の発言を高く評価し、「熒惑」が本当に動いたという話である。

以上のそれぞれの本文内容と選択肢を照合して正誤を判断する。どちらの本文も「天人相関説」にまつわる逸話である。逸話の場合は、あらすじの把握が肝要である。

共通テストでは、共通主題や何らかの関連のある複数の本文が提示され、それぞれの内容や趣旨を対照する設問が必ず1～2題出題される。本文の内容や趣旨を正しく把握する読解力を養成しよう。

【物理基礎】

力を正しく図示し、力のつり合いを考えよう

第2問 問2

水につかった球について力のつり合いを考える問題

本問は水につかった球にはたらく力のつり合いに関する組合せ問題であるが、問1の球が水につかっていない場合の記述がしっかりできていることが前提となる。球にはたらく力のつり合いを考え、さらに三本の糸の連結点にはたらく力のつり合いを考えることになる。題意は糸が天井から受ける力についての問いになっており、やや難しくなっているが、点Oに着目し点Oが糸から受ける力と糸が天井から受ける力が等しいことに気付けたかどうか大きなポイントになる。しっかり考えたい。

球が水につかっている場合、球には重力、点Oと球の間の糸からの張力の他に浮力が鉛直上向きにはたらくので、点Oと球の間の張力の大きさは問1の場合より小さくなっている。このことは容易に分かるはずである。次に点Oに着目すると、鉛直方向の力のつり合いより、OA間の糸の張力の大きさとOB間の糸の張力の大きさはそれぞれ球を水につけない場合より小さくなっていることが分かるはずである。しかし、水平方向の力のつり合いを考えると、OA間の糸の張力の水平成分の大きさとOB間の糸の張力の水平成分の大きさは等しいことが分かる。球が水につかっていない問1の場合の水平方向の力のつり合いを考えると、OA間の糸の張力の大きさとOB間の糸の張力の大きさの比は変化しないことが分かる。

解答を得るために最も重要なことは、問題文をしっかり読み状況を正確に読み取ることに尽きる。この段階で誤った解釈をしてしまうと決して正解が得られない。物理基礎の試験時間は30分と短いが集中して問題を読もう。

【物理】

振動中心と端をマークして、単振動の様子を把握しよう！

第2問 問5 単振動

単振動中の物体の質量を変化させた後の、位置の時間変化のグラフを選択する問題

単振動は受験生が苦手とする代表的な分野だが、その原因の一つは運動の様子を十分にイメージできないまま問題を解き進めようとしてしまう点にある。単振動は、振動の中心と端の位置がわかれば全体像を把握できる。本問は、その振動の全体像を把握する力があるかどうか問うた問題であった。

まず、振動の中心は力のつり合いの位置であるから、力のつり合いの式から求めることができる。あるいは、単振動の運動方程式は $ma = -k(x - x_0)$ の形になり、このときの x_0 が振動中心の位置を表すことから求めてもよい。一方、振動の端の位置は速さが0となる位置である。つまり、物体を「静かに」放した位置では速さが0なので、そこが振動の端になる。あるいは、エネルギー保存則から速さが0となる位置、すなわち端を求めることもできる。以上のようにして、振動の中心と端の位置がわかれば、その2点間の距離を振幅として、振動中心に対称に単振動する様子が把握できるであろう。

本問では、おもり1と2が最下点に達した瞬間、つまり速さが0になった瞬間におもり2を取り去るので、振動の下端はおもり2を取り去る前後で変わらないはずである。また、おもり2を取り去ることで単振動する物体の質量が小さくなるのだから、重力と弾性力のつり合いの位置、すなわち振動中心は上方にずれることがわかる。振動の下端の位置は変わらず、振動中心が上方にずれるのであるから、振幅は大きくなる。よって、グラフは③か④に絞られる。③と④の違いはおもり2を取り去った後の周期の違いである。周期の公式 $T = 2\pi\sqrt{\frac{m}{k}}$ から、質量が小さくなると周期は短くなるので、答は③となる。

この問題のポイントは振動の中心と端をマークし、振幅がどうなるかを把握することと、周期の変化に着目することである。また、グラフ選択の問題に限らないが、共通テストでは選択肢が二つに絞られる場面が非常に多い。違いを比較することで、どこに着目すればよいかが明確になる。その点も意識して共通テスト形式の問題に取り組んでみてほしい。

【化学基礎】

必要な情報を読みとる力をつけよう！

第1問 問4

与えられた情報と知識を組み立てて解法を導く力が問われる。

第1問問4は、教科書では扱われていない3種類のアルカリ金属のハロゲン化物の融点の高低を考察する問題である。考察の前提として、イオン結晶では、陽イオンと陰イオン間の結合が強い物質ほど融点が高い。イオン間の結合の強さは、(i)陽イオンと陰イオンのもつ電荷の積の絶対値が大きいか、また、(ii)イオン間距離が小さいほど強くなることが記載されており、その具体例として、アルカリ土類金属元素の酸化物のイオン間距離と融点の関係が示されている。ここから、(i)の条件が同じである場合、(ii)の条件から融点の高低が判断できることが導かれる。対象となっているアルカリ金属のハロゲン化物の場合も、いずれも1価の陽イオンと1価の陰イオンからなる物質なので、(i)の条件は同じであり、したがって、(ii)の条件から、融点の高低が判断できることに気づいたかが1つめのポイントである。次にイオン間距離とは何かである。これは問題文に「接している陽イオンと陰イオンの中心間距離」のことでありと示されている。したがって、イオン間距離は陽イオンと陰イオンのイオン半径の和であることを、読み取れたかが2つめのポイントである。これと教科書に記載されているイオンの大きさに関する知識、考え方を結びつけることができたかが3つめのポイントである。同族元素の単原子イオンの場合、原子番号の大きいイオンほど、イオンは大きい。(なお、このことは表1のイオン間距離のデータからも判断できる。)したがって、陽イオンの大きさは、 $K^+ > Na^+$ であり、陰イオンの大きさは $Cl^- > F^-$ である。以上から、イオン間距離は $KCl > NaCl > NaF$ であり、融点の高さは $NaF > NaCl > KCl$ と判断できる。

共通テストでは、この問題のように、問題文で与えられた記述やデータを整理し、教科書で学んだ知識と組み合わせることで解法を導く思考力を要する問題が出題されている。全統共通テスト模試では、このような思考力を要する問題を必ず出題しているため、このタイプの問題の過去問演習などを通じて、必要な情報をつかみ、解法を組み立てていく力を養おう。

【化学】

問題文の記述と化学の原理・法則を結びつけて解答を導く力を養おう！

第2問 問4 混合気体、気液平衡、蒸気圧降下
原理・法則や一般的な傾向を的確に当てはめて判断する問題

蒸気を含む混合気体に関する問題である。

aは、圧力一定の条件で温度を低下させたときの温度と水蒸気の水蒸気圧の関係を表すグラフを選択する問題である。水蒸気がすべて気体として存在する高温域では、窒素と水蒸気の水蒸気圧は変化せず、成分気体の分圧比＝物質比より、分圧も変化しないので、グラフは水平になる。このときの水蒸気の水蒸気圧が飽和蒸気圧と等しくなる温度で水蒸気は飽和に達し、それより低い温度域では液体の水が生じて気液平衡になるため、水蒸気の水蒸気圧＝飽和蒸気圧になり、グラフは蒸気圧曲線に一致する。なお、温度の低下とともに水蒸気の水蒸気圧が減少するため、その分だけ窒素の水蒸気圧は増加する。これは、温度の低下とともに液体の水が増加して水蒸気の水蒸気圧が減少するため、混合気体中の窒素のモル分率が増加することに対応する。圧力一定、体積一定、温度一定のそれぞれの条件での気体のグラフについて習熟しておきたい。

bは、混合気体の問題を解く上で最も重要な成分気体の分圧比＝物質比の関係を用いて、窒素の水蒸気圧から水蒸気の水蒸気圧を求められることに着眼できたかがポイントである。

cは、重要事項に関する理解の質が問われた。揮発性の物質を溶かすと蒸気圧降下が起こることに思い至り、その結果、水蒸気の水蒸気圧および混合気体全体の物質比が減少することを判断する必要があった。

共通テストでは、問題文の記述や表、グラフに関して、化学の知識や原理・法則に基づいてその内容を的確に把握・分析した上で、原理・法則を当てはめて解答を導く、思考力を要する応用問題が出題される。また、分析した結果に適するグラフを判断して選ぶ問題も多く出題される。問題内容を正しく理解するためには、教科書の全範囲にわたって万遍なく重要事項を身につけておく必要がある。また、思考力・判断力を養い、グラフ問題にも対応できるようにするためには、問題演習が欠かせない。問題集や模試、講習会などを利用して、できるだけ多くの問題に取り組み、化学の知識を広げ理解を深めるとともに、着眼点を発見するカンや原理・法則を活用するコツをつかんでいく。

【生物基礎】

ゲノムと遺伝子の関係について理解を深めよう！

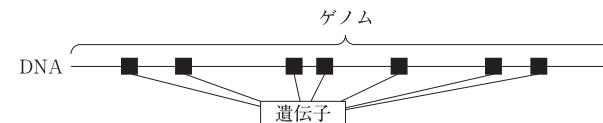
第1問 問6 ゲノム

ゲノムの中で遺伝子が占める領域の割合を計算する問題

共通テストの第1問は「生物の特徴」の分野からの出題が予想される。今回は、Bでゲノムに関する計算・考察問題を出題した。

この設問は、ヒトと大腸菌のゲノムの中で遺伝子が占める領域の割合の違いを計算し、どちらが大きいかを比較する計算問題であった。

ゲノムは、生物が保有する遺伝情報の総体のことであり、また、全ての遺伝情報(遺伝子)を含むDNA全体のことであり、ゲノムと遺伝情報の関係は、下図のようになる。



大腸菌とヒトの遺伝子の平均塩基対数を x 塩基対とすると、大腸菌の遺伝子の総数は4500個であるため、遺伝子の領域は $4500x$ 塩基対となり、ヒトの遺伝子の総数は20000個であるため、遺伝子の領域は $20000x$ 塩基対となる。大腸菌とヒトのゲノムはそれぞれ500万(= 5×10^6)塩基対と30億(= 3×10^9)塩基対であるため、ゲノムの中で遺伝子が占める領域の割合は、大腸菌が $\frac{4500x}{5 \times 10^6}$ 、ヒトが $\frac{20000x}{3 \times 10^9}$ である。ここで求めるのは、ゲノムの中で遺伝子が占める領域の割合は、大腸菌のほうがヒトよりも何倍大きいかであるため、これを y 倍として計算すると、 $\frac{4500x}{5 \times 10^6} = y \times \frac{20000x}{3 \times 10^9}$ より、 $y = \frac{3 \times 10^9 \times 4500x}{20000x \times 5 \times 10^6} = 135$ 倍となる。

この設問のように、共通テストでは、与えられた表やグラフを利用して、計算・考察する問題が出題される。このような問題に対応していく力を養うため、全統模試を活用して様々な考察問題に取り組むとよいであろう。

【生物】

教科書の知識を活用し、設問文にもとづいて考察しよう！

第2問 問5 呼吸と発酵

呼吸と発酵に関する知識を活用して、設問文とグラフをもとに考察する問題

この問いを解くためには、呼吸と発酵に関する正確な知識が必要です。まずは、グルコースを呼吸基質とした呼吸では、消費される酸素と同じ体積の二酸化炭素が発生すること、そして、アルコール発酵では、酸素は消費されず、二酸化炭素が発生することを知識として知っている必要があります。それから、これらの知識をもとに、グラフから、グルコース濃度がある値よりも大きくなると、グルコース濃度の上昇に伴って呼吸が抑制され、アルコール発酵が促進されることを読み取る必要がありました。また、呼吸では、グルコース1分子当たり、最大で38分子のATPが合成されるのに対し、アルコール発酵では、グルコース1分子当たり2分子のATPが合成されるという知識をもとに、設問文に沿って考察する必要がありました。

呼吸やアルコール発酵といった用語自体は多くの受験生が教科書で学習して知っているはずですが、しかし、模擬試験では正答率に大きな差が生じます。その理由の一つは演習量の差です。大学入学共通テスト生物(以下、共通テスト)では、教科書の知識を理解して応用する力が求められるので、教科書の知識をただ知識として覚えているだけでは共通テストの問題を攻略するのは難しいのです。教科書の知識を理解し応用できるようになるには、考察問題の演習が効果的です。意識的に考察問題の演習を行いましょ。

ただし、共通テストでは「考察力」というワードが目立っていますが、これには注意が必要です。確かに、共通テストは、知識だけで解ける問題の割合が低く、解答に考察を必要とする問題の割合が高くなっています。しかし、「考察を必要とする問題」というのは、教科書の知識が無くても解けるという意味ではありません。もちろんそのような問題も出題されますが、「考察を必要とする問題」の多くは、この第2問の問5のように、教科書の正確な知識にもとづいて、与えられた条件から考察する力を要求される問題なのです。そのため、教科書の内容を理解することを決して軽んじてはいけません。まずは教科書に載っている知識をしっかりと習得することが重要です。その上で、考察問題の演習などを通して読解力と考察力を養っていきましょう。

【地学基礎】

地質断面図の読み取りに慣れておこう！

第1問 問5 地質断面図

地質断面図から形成順序を読み取る問題

本問は、地質断面図から地層・断層・岩体の形成順序を考察する問題である。選択肢は二つの地層・断層・岩体の前後関係を述べた文であるが、全体の形成順序を考えるようにしよう。形成順序を考えるときのポイントは、「切っている方が新しい、切られている方が古い」という関係である。これは、切られている方はもともと存在していたため古く、切っている方は侵食・断層・貫入などの出来事によって古い方を切った後にできたものだから新しい、という理論である。

本問の断層Fを考えると、断層Fは地層B～Dをずらしている、つまり切っているのだから、断層Fは地層B～Dよりも新しいと判断できる。これは、地層B～Dがもともと存在していたが、後に断層Fができて地層B～Dをずらしたということである。次に断層Fで注目すべきは、地層Aとの関係である。断層Fは上端で地層Aに切られているのだから、断層Fは地層Aよりも古いと判断できる。これは、もともと断層Fは上の方にも続いていたが、侵食によって周囲の地層とともに削られてなくなった後に地層Aが堆積した不整合の関係である。さて、岩体Eと断層Fの順序については、岩体Eによって変成岩になった部分に注目することがポイントである。変成岩の分布は、断層Fの東西で連続的につながっており、断層Fによってずらされていない。よって、断層Fがずれた後に変成岩が形成された、つまり岩体Eが貫入したことがわかる。後は、地層B～Dの順序は、地層の逆転がないことから下の地層ほど古いと判断でき、地層Aと岩体Eの順序は、化石と形成年代から判断できる。これらを組み合わせると、地層D→地層C→地層B→断層F→岩体E→地層Aとなる。

このように、注目すべき判定ポイントを探し、一つ一つ丁寧に読み取って順序を考えていけばよい。地質断面図の読み取りには慣れも必要である。同様の問題をなるべく多く練習して、地質断面図の読み取りに慣れておこう。

【地学】

天気図を読み取る練習をしよう！

第4問 問1 高層天気図

高層天気図から風向を読み取る問題

天気図は、気圧や天気記号、特定の気圧になる高度(等圧面高度)、気温などを地図上に記入したもので、さまざまな気象現象を把握するために利用される。天気図は、地上天気図と高層天気図に大きく分けられることができる。地上天気図では、等圧線を描いて地表の気圧分布を表すのに対して、高層天気図では、等圧面高度を等高線で表し、等圧面天気図と呼ばれる。

本問は、高層天気図である500hPa等圧面天気図を読み取る問題である。そのためには、まず高層天気図の特徴を把握しておく必要がある。

気圧は、高度が約5500m高くなるごとに約2分の1となる。地上における1気圧は約1000hPaであり、その半分の500hPaとなるのが高度約5500m付近であることから、500hPaの等圧面の等高線は、問題の図1のように、約5500m前後の高度となる。なお、300hPaの等圧面の場合には約9000m前後の高度の等高線となり、300hPa等圧面天気図には対流圏上層の大気の状態が表される。

高層における等圧面の等高線は、赤道付近の方が極付近よりも高度が高い傾向となる。また、等圧面の等高線の高低は、高層において、同一高度における気圧の高低に対応する。等圧面のくぼみの軸を気圧の谷といい、等圧面の等高線が低緯度側に張り出した形状をなす。一方、等圧面の高まりの軸を気圧の尾根といい、等圧面の等高線が高緯度側に張り出した形状をなす。

風にはたらく気圧傾度力を考える際は、高度の高い方から低い方へ、等高線に直交する向きにはたらく。上空の風は地衡風であることから、気圧傾度力と反対向きに偏向力(コリオリの力)がはたらき、この2力がつり合った状態で風が吹く。その結果、上空では主に西風が吹いているということがわかる。

私たちが日常生活で地上での移動などで用いるような狭い範囲を示した地図とは異なり、天気図では、広範囲を示した地図が用いられる。中高緯度の広範囲を示すために、問題の図1のように、経線が北極から放射状に描かれた地図が用いられることもあり、その場合は、経線の方向が南北方向を示しており、経線の方向と直交する方向が東西方向を示すということに注意が必要である。

地理歴史，公民

【地理総合】

図表は丁寧に読み取ろう

第1問 問2

ASEAN, EU, USMCA 間の貿易

本問の3つの地域のうち、EUは、域内関税の撤廃などによる市場統合を達成し、加盟国間の貿易が盛んなため、域内の貿易額が特に大きいキが該当する。多くの受験生はEUを正しく選択できていた。ASEANは、発展途上国が主であり、貿易額が他の地域より少ないウが該当する。残るUSMCAには、貿易赤字額が世界で最も大きいアメリカ合衆国が含まれており、会話文のカナデさんの発言にあるように「他の地域に対して貿易赤字」となるカが該当する。このことから、Aが輸出、Bが輸入と判定できるが、Aを輸入と誤って判定した受験生が多かった。一度決めた選択肢を覆すことは難しいが、見直しの際に矛盾点を丁寧に確認し、正しい答えを選べるようにしよう。

用語を整理して覚えよう

第2問 問3

自然地形と水害リスク

本問は、自然地形と水害リスクに関するものである。地点X付近は、河川が山地から平野に流れ出る谷口に扇状地が形成されている。この付近では、大雨が降ると谷に沿って土石流が発生する危険性が高い。多くの受験生は土石流を正しく選択できており、液状化現象と取り違えた受験生は少数だった。一方、地点Yが位置するサは細長い形状で、両側に氾濫平野が広がっていることから旧河道である。しかし、遊水池と取り違えた受験生が多く、上位層と下位層の正答率の差が大きく開いた。サは、細長い形状で、南北方向に分布していることから旧河道と判定できるが、遊水池について知らない受験生が多かったようである。遊水池とは、洪水時に河川から溢れ出た水を一時的に貯める役割を持ち、下流への流量を調整する洪水調節機能を備えた場所である。本問は、受験生に対して読図の技能に加え、用語が体系的に整理され、正確に覚えられているかを問うたものである。用語は体系的に整理して覚えるように心がけよう。

【歴史総合】

歴史総合の基本事項を習得しよう

第1問 問2・問6・問8

歴史総合の基本知識を問う問題

問2では、世界各国の宗教と教育の間にあった出来事について問うた。メモⅠは「第一次世界大戦後」と「ムスタファ＝ケマル」から、メモⅡは「『皇民化』政策」から、メモⅢは「プロイセン＝フランス戦争」と「第三共和政」から時期を判断したい。いずれのメモも基本知識が習得できていれば正解可能である。問6では、空欄ウで公民権運動を問うた。他の選択肢の「反アパルトヘイト運動」も含めて第二次世界大戦後のアメリカ合衆国、南アフリカ共和国についての基本事項である。問8では、第二次世界大戦後のマレーシア、ヨーロッパにおける公教育を探究するための問いとそれを考察するための学習活動として適当な組合せを問うた。問いあに該当する学習活動Wが判断できなくとも、学習活動Xの「東遊運動」の時期が判定できれば正解できる。問いいも、学習活動Yが判断できなくとも、学習活動Zの「オーストリア＝ハンガリー帝国」が存在した時期から正解を導くことができる。

資料を読み取る力と知識力，どちらも重要！

第2問 問6

資料から読み取った情報を，知識と照らし合わせて総合的に判断する問題

八幡製鉄所についての正誤判定問題である。レポート2・表の読み取りが必要だが、③④に必要な表の数値の読み取りだけでなく、①②では、表のタイトル「八幡製鉄所における操業開始年からの変化」という部分を読み取り、表の初年「1901年」が八幡製鉄所の操業年と判断する必要があった。また、読み取りが正確にできて、八幡製鉄所が下関条約で獲得した賠償金を利用して建設されたことや、出来事の時期(南満洲鉄道の獲得、大阪紡績会社の設立、第一次世界大戦の勃発)を知らないと解けなかった。

このように歴史総合では、資料の読み取りと知識の両方を必要とする問題が出題される。非常に手間がかかる問題であり、予想問題などで慣れておこう。その際、重要な歴史事項の時期についての知識を身につけておくとう有効である。

【公共】

日本国憲法の規定を的確に理解しておこう

第1問 問1

日本国憲法が定める直接民主制的な制度についての知識問題

この設問では、日本国憲法が定める直接民主制的な制度の内容について、的確に理解できているかどうかを試されている。日本国憲法が定める直接民主制的な制度には、【1】最高裁判所裁判官の国民審査(第79条)、【2】地方特別法の住民投票(第95条)、【3】憲法改正の国民投票(第96条)の三つがあり、この設問では【2】と【3】について取り上げられている。

空欄アには「特定の地方公共団体のみに適用される法律」が入る。日本国憲法によれば、国会が特定の地方公共団体のみに適用される特別法(地方特別法)を制定するには、その地方公共団体の住民投票においてその過半数の同意を得なければならない(第95条)。「地方公共団体が制定する条例」は、空欄アには入らない。憲法上、地方公共団体は法律の範囲内で条例を制定することができる(第94条)が、条例の是非を問う住民投票についての規定はない。地方特別法と条例を混同しないよう、注意したい。

空欄イには「国会」が入る。日本国憲法は、「この憲法の改正は、各議院の総議員の3分の2以上の賛成で、国会が、これを発議し、国民に提案してその承認を経なければならない」(第96条1項)と定めている。したがって、「内閣」ではなく「国会」が空欄に入るものとして適当である。憲法改正手続に関する知識事項は、教科書を用いてしっかりと習得しておくことが重要である。

2025年度の共通テスト本試験「公共」においても、日本国憲法の規定に関する知識を問う設問が、第1問・問1で出題された。日本国憲法の規定に目を通したり、過去問や模擬試験を用いて類題研究に努めたりして、確実に得点できるようになりたい。

【地理総合，地理探究】

なぜそうなるか？を整理し，理解して覚えよう

第4問 問2

工業製品と知的財産権等使用料

アメリカ合衆国では脱工業化が進み，人口が多く所得が高いため工業製品の需要が大きい。このため，輸入が多く，工業製品の貿易収支は世界最大の赤字である。一方，研究開発力が高く，特許などの知的財産権の使用料の収支は世界一の黒字である。上位層の受験生の多くはアメリカ合衆国を正しく選べたが，下位層ではアメリカ合衆国とドイツを混同していた。ドイツは工業製品の貿易収支は黒字である。また，研究開発力も強く，知的財産権の使用料の収支も黒字である。中国は世界最大の工業国で，輸出額が世界一であり工業製品の貿易収支は黒字である。しかし，外国の特許を使用した生産が多いため，知的財産権の使用料の収支は赤字である。受験生の過半数は中国を正しく選べていたが，アメリカ合衆国とドイツの2択で誤ったようである。事象の背景を理解して正しく判断できるように準備しよう。

見直しでは，自分が選んだ答えの矛盾点を丁寧に探そう

第4問 問5

製造業における温室効果ガスの排出とその削減の取り組み

タにおいて，「スコープ1」は，自社で化石燃料を燃焼して排出する二酸化炭素のみを計上する。「スコープ1+2」は，購入した電力や熱の製造過程で排出される二酸化炭素も加算する。電力は主に外部から調達されるため，電力消費量が多い工程に注目する。qで割合が高い化学や鉄鋼は高熱を使うため自社の化石燃料消費が多く，特に製鉄業は石炭を大量に使い，二酸化炭素排出量が多い。一方，pで割合が高い機械・金属製品は加工や搬送で電力を多く消費する。よって，pは「スコープ1+2」，qは「スコープ1」である。チにおいて，sでは，化学繊維は製造時に化石燃料を多く使い，環境負荷が高い。tでは，不要な衣類を回収・再販売し，廃棄や余分な生産を減らすため，二酸化炭素削減に貢献する。この設問も，上位層と下位層の正答率の差が大きく，tを正しく選べた下位層の約半数がタのpとqを誤っていた。見直しでは，図表などを丁寧に確認し，自分が選んだ答えの矛盾点を探し，正しい答えを選び直せるようにしよう。

【地理総合】の学習対策も確認しておこう。

【歴史総合，日本史探究】

諸資料を参照して解答しよう

第2問 問1

思考力・判断力を用いて解答する問題

本問では，古墳の被葬者の性格について，複数のグラフや図から考察する問題である。設問の選択肢あ・いともに，受験生にとって未知の情報であろうから，グラフや図・メモを総合的に参照して解答する必要がある。あに関しては，メモ1を参照し，「初葬者」が「古墳を築造した家族の家長」であることを読み取り，さらにグラフ1から古墳時代後期の初葬者の性別の割合を参照して，古墳時代を通して家長を男性が継承する傾向が強まったことを読み取りたい。いに関しては，グラフ2にある武器類が副葬される場合，多くの場合において被葬者が男性であることを読み取りたい。さらに車輪石について，メモ1から被葬者が女性の場合は手首の部分に置かれること，および図2から向野田古墳の棺内の車輪石は被葬者の手首あたりにあることから，女性への副葬の方法であると判断したい。共通テストでは，複数の資料を参照して正解を導く問題が出題される。本問を通して，諸資料を丁寧に読解して解答できたかどうか確認してほしい。

年代配列でしっかり得点できるようになろう

第3問 問3

抽象化された文章の配列に対処できるようにしよう。

年代配列問題は，例年正答率が低く，受験生が苦手とする出題形式である。さらに，共通テストでは具体的な歴史用語を示さずに抽象的な文章の年代を配列させる形式も多くなっているため，難度が高まっているといえるだろう。このような傾向に鑑みて出題した第3問の問3では，Ⅰでは「東国の武士が反乱」「新皇と称した」から10世紀前半に起こった平将門の乱であると判断したい。Ⅱでは「天皇と結んだ藤原氏の人物」「僧侶を重用した太上天皇」について，前者が淳仁天皇と藤原仲麻呂，後者が道鏡と孝謙太上天皇であり，8世紀半ばにおける両者の対立を想起したい。Ⅲでは「兄の太上天皇と弟の天皇が対立」から，前者が平城太上天皇，後者が嵯峨天皇であると気づきたい。これらをふまえ，年代を正しく配列していくわけだが，時期を特定する情報をいかに抽出するか，換言すれば政治上の出来事の内容を的確に理解できているかがポイントとなる。

【歴史総合，世界史探究】

問題文や資料をじっくり読み込み，知識と照らし合わせよう！

その知識の中には，時期に関する知識も含まれる！

第3問 問4

資料などから必要な情報を抽出し，それを知識で検証する問題

この問題は，資料(ヘロドトスのエジプトについての記述)を読んだメンバーの意見と，意見の根拠として考えられることについての正誤判定問題で，設問文や資料を丁寧に読む必要がある。設問文からメンバーの意見として「資料中の『祭司たち』が証言した意図や，証言とは異なる見解など」があることが読み取れるので，まず，「祭司たち」の証言を資料から読み取る必要がある。すると，ケオプスすなわちクフ王がピラミッド建設のためにエジプト全国民を強制的に働かせ，世にも悲惨な状態に陥れたと「祭司たち」が批判的に証言していることから，「過去のエジプト王によるピラミッド建設を過酷な労働と印象づけ」，「資料が書かれた当時エジプトを支配していたセム語系民族の国家の支配を正当化する」ことが「祭司たち」の意図だとするあが適当に思えるのだが，あは誤文である。なぜなら，「資料が書かれた当時」すなわち「前5世紀」に「エジプトを支配していた国家」は，「セム語系民族の国家」ではなく，インド＝ヨーロッパ語系のアケメネス(アカイメネス)朝ペルシアだったからである。あを選択した人は意見の根拠として考えられることとして，「X 資料が書かれた当時のエジプトは，オリエントを初めて統一したアッシリア王国が支配していた」を選ぶことになると思うが，セム語系のアッシリア王国がエジプトを征服してオリエントを初めて統一したのは前7世紀であり，アッシリアはその後，前7世紀中に滅亡しているため，前5世紀にエジプトを支配することはない。そこで，クフ王を強く批判している「祭司たち」と異なる意見としていが適当と判断し，対応する意見の根拠として考えられることはYとなる。文章を思い込みではなく正確に読む力，教科書から習得した知識と結び付けて，総合的に判断する思考力が必要である。その知識には，時期に関する知識も含まれる。本問を解く際，前5世紀といえばペルシア戦争であり，その戦争がアケメネス朝のダレイオス1世時代から始まったという知識を働かせてもよかった。教科書などに付いている年表などを活用して，時期の感覚を養おう。

【歴史総合】の学習対策も確認しておこう。

【公共、倫理】

思想に関する基本知識と読解力をともに重視しよう

第4問 問4

ロックの思想に関する知識と読解力を試す問題

この問題は、まずは資料文を読んでその著者を、そして次にその著者の思想を選ぶ、という2段階の判断を要するものとなっている。ただし、「ある人物が社会契約説を主張した著作からの抜粋である」と設問文にあることから、ホッブズ、ロック、ルソーのいずれかに絞ることができ、この3人の社会契約論の異同に関する知識は基本的なものであるから、基本がしっかりと身に付いていて資料文を正確に読むことができる受験生にとっては、問題形式の珍しさに比して難易度自体は高いものではない。

資料読解のポイントは2点ある。一つ目は、資料文前半の趣旨の読み取りである。そこでは、自然状態から新しい国家状態に移行する理由が、自然状態における自然権の確保の不確実性に求められている。この趣旨を読み取ることができれば、あとはこの考え方がロックの社会契約論の特徴であるという判断は、基本知識によってなしうるものである。しかし、資料文前半の趣旨については、選択肢②のホッブズの思想との読み違いも起こりうる。つまり、「自然状態においては……絶えず他の者の侵害にさらされ……彼はたとえ自由であっても怖れと不断の危険とに満ちている状態を進んで離れようとする」という記述から、「万人の万人に対する闘争」を連想してしまうのである。しかし、仮にそのように読み違えたとしても、次のポイントを押さえることで、ホッブズではなくロックの思想に関する選択肢である④を選ぶことができる。そのポイントとは、この著者が自然権を「所有」の権利だと考えているということを読み取ることである。そこから、自己保存権を自然権としたホッブズではなく、所有権を自然権であるとしたロックによる著作だと判断することができる。さらに、この点によって、私有財産制を乗り越えるべき悪しき状態だと考えたルソーの思想に関する選択肢である①と③を排除することもできる。

共通テストでは資料文問題の比重が高い。今後の学習においては、基本的な知識の習得と同時に資料の読解力を高め、実際の問題に際しては両者を結びつけることができるように努めてほしい。

【公共】の学習対策も確認しておこう。

【公共、政治・経済】

設問文を読んで理解する力を養おう

第4問 問5

設問文に示された説明に従って計算する問題

本問は設問文に示された説明に従って計算するタイプの問題である。第4問の問3も同様の問題であり、共通テストではたびたび出題されている。このタイプの問題を解くためには、模擬試験や過去問を解くことを通じて、演習力を身につけておく必要がある。

まず、設問文で示された説明を確認する。利回りとは、「利子による収益と、投資金額(購入金額)と額面金額の差から生じる損益との合計の投資金額に対する割合」である。要するに、利回りとは投資金額に対する利子も含めた収益の割合のことである。

いま、設問文にあるように、この債権の投資金額(購入金額)は96万円である。つぎに、利子による収益(利子収入)は、表2にあるように、2万円である。最後に、投資金額と額面金額の差から生じる損益との合計は、投資金額が96万円で、額面金額は100万円なのだから、 $100万円 - 96万円 = 4万円$ である。したがって、利子も含めた収益は $2万円 + 4万円 = 6万円$ となる。以上を踏まえて、利回りを求めると、 $6万円 \div 96万円 \times 100 = 6.25(\%)$ となる。

このタイプの問題は、設問文に示された説明を丁寧に読み取り、それに従って慎重に計算する力が問われている。

【公共】の学習対策も確認しておこう。

情報

【情報 I】

数学的な思考を心がけよう！

第1問 問3

回帰直線の性質や相関係数との関係についての理解を問う問題

相関係数や回帰直線(回帰式)は表計算ソフトに任せればよいと考えている受験生は多いと思う。実用的にはそれで問題はないのだが、基本的な事項については理解しておきたい。また、散布図や回帰直線を読み取ったり解釈したりする経験を積んでおきたい。数式を見ると拒絶反応を起こす受験生も少なからず存在すると思われるが、情報と数学は切り離せない部分も多いので、数学的な思考力も養っておきたい。

【キ】は、回帰直線の求め方に関する記述①～④の正誤を問う問題とした。回帰直線がどのような直線に触れている教科書も多いので、既習の知識として④を選択できればそれでもよい。問題文から回帰直線は「得点があつ傾向を調べるため」の直線、言い換えれば、散布図中の点の配列にできるだけ合うような直線であることがわかる。したがって、データの傾向と一致しない「外れ値」を利用する②の方法は適当でない。また、図3の直線を見れば、どの点も直線上にないので③は適当でない。傾きが負であることから(平均点 \bar{X} 、 \bar{Y} は正の値)、①も適当でない。わかる。

このように考えれば短時間で解答できたと思われる。

【ク】は、回帰直線や相関係数の性質についての記述①～④の正誤を問う問題とした。見慣れない関係式が与えられているが、恐れることはなく、相関係数の正負と回帰直線の傾きの正負が一致することが理解できればよい(標準偏差は正の値)。また、一般に、相関係数や回帰直線の傾きから因果関係の有無を判断することはできないことは知っておこう。これより、因果関係に言及している①と②は適当でないことがわかる。また、科目 X と Y の試験の実施順は、回帰直線の傾きや与えられた関係式からは判断できないので、これに言及している③も適当でないことが容易にわかる。

2025年1月実施の本試験を見ても、数学的な要素が含まれる問題が多く出題されている。数学 I の『データの分析』範囲に関しては確実に理解しておくようにしよう。

お詫びと訂正

学習の手引き『国語・地理歴史・公民』「国語」に以下のような誤りがありました。お詫びするとともに訂正いたします。

●学習の手引き『国語・地理歴史・公民』冊子

「国語」P.107

第2問 問5 選択肢④の解説 12行目

【誤】 こうしたことからは、涼子が心ならずも…

↓

【正】 こうしたことからは、類子が心ならずも…

「成績推移」過回成績表示 申請について

このたびは、第2回全統共通テスト模試を受験していただきありがとうございました。
さて、個人成績表には、過去にも全統共通テスト模試を受験されている場合、学力伸長度・学習成果を確認いただくために「成績推移」(過回成績)を表示しています。

しかし、各模試受験時に提出いただく受験届の基本事項(カナ氏名、生年月日、高校コード、学年、クラス、出席番号、電話番号)に過去の回と一致しない項目があった場合(同一の方と判断できず)個人成績表の「[5]成績推移」欄に過回成績が表示されないことがあります。表示されていない過回成績の表示を希望される場合は、以下の手順に従って申請していただければ、過回成績を表示した個人成績表を改めてお届けします。

学校一括で申込・受験された全統共通テスト模試個人成績表には、個人で申込・受験された回の成績は表示されません。このケースについては対応できませんのでご了承ください。また、右の申請用紙は「過回成績」表示専用です。個人成績表の他の項目や得点等について修正することはできませんのでご了承ください。

①送付先

右の申請用紙の太枠内をすべて記入し、29ページに記載されている河合塾の営業部あてに郵送にてお送りください。なお、河合塾生(塾生として申し込んだ大学受験科・高校グリーンコース生)の方は、所属校舎へご提出ください。

②申請用紙の記入方法

成績表示されていない過去の全統共通テスト模試の「解答用紙番号」「受験番号」を記入してください。

③提出していただくもの

1. 右の申請用紙
 2. 今回の模試の個人成績表(コピーの場合は第1面と第4面を提出してください)
*ただし、Web返却対象者は必要ありません。
 3. 成績推移欄に表示されていない過去の全統共通テスト模試個人成績表(第1面のコピーで可)
- ※ 提出いただいた個人成績表は、一緒に返却いたします。

上記を同封し、封筒の表に朱書きにて「第2回全統共通テスト模試 過回成績表示申請」と明記してお送りください。

④送付締切日

9月22日(月)河合塾到着分まで受け付けいたします。

⑤返送日

個人成績表は、10月6日(月)頃発送の予定です。

【個人情報の取り扱いについて】

1. 申請用紙に記入された個人情報は、厳重に取り扱い適正な管理を実施します。
 2. 利用目的…個人成績表に過回成績の表示および成績返却
…過回模試の受験届に記入された情報の確認と修正
- 上記の2点の利用目的以外には使用しません。

申請用紙の記入・提出方法についてご不明な点がございましたら、下記のフリーダイヤルへお問い合わせください。

※河合塾生(塾生として申し込んだ大学受験科・高校グリーンコース生)の方は、所属校舎にお問い合わせください。

全統模試サポートセンター(12:00~19:30 日曜、祝日および12/31~1/3は受付を行いません。)

フリーダイヤル: 0120-977-558

*全統模試サポートセンターでは、正確な応対と対応品質向上のため、通話内容を録音させていただきます。

2025年度 第2回全統共通テスト模試 「成績推移」過回成績表示 申請用紙

●太枠内をすべてご記入ください。

提出日 月 日

フリガナ 氏名				生年月日	S ・ H	年	月	日
今回の 解答用紙番号	—			今回の受験番号			性別 (O印を)	男・女
在・卒高校名	学年	クラス名	クラス番号					
住所 (連絡先)	〒 ※マンション名、部屋番号まで記入してください。							
電話番号	() —			携帯電話番号	() —			
成績が表示されていない模試の 解答用紙番号を 記入してください。 ※受験番号は発 番されている場 合に記入してく ださい。	模試名		解答用紙番号		受験番号			
	全統共通テスト高2模試		—					
	第1回全統共通テスト模試		—					

※記入漏れがある場合、過回成績が表示できないことがありますのでご注意ください。

(過回成績表示についてのご確認)

個人情報保護により、高等学校、塾・予備校等の学校経由で申込み・受験された全統共通テスト模試個人成績表には個人で申込み・受験した過回の成績は表示されませんのでご了承ください。成績表示を希望される場合は、必ず過回の模試申込みの形態をご確認ください。

【河合塾記入欄】

受付日	受付者	返却日	返却者

お問い合わせ先一覧

■模試について

- ①個人でお申し込みの方 河合塾全統模試サポートセンター 0120-**977**-558
②学校を通じてお申し込みの方 河合塾全統模試サポートセンター 0120-**717**-558
③河合塾生の方 [高校グリーンコース生専用フリーダイヤル] 0120-**751-577**

※高校グリーンコース生以外の塾生の方は所属校舎へお問い合わせください。

* 河合塾全統模試サポートセンター／高校グリーンコース生専用フリーダイヤル (12:00~19:30 日曜、祝日および12/31~1/3は受付を行いません。)

■「成績推移」過回成績表示申請用紙の記入・提出方法について

- ①河合塾生の方 所属校舎
②河合塾生以外の方 河合塾全統模試サポートセンター 0120-**977**-558
www.kawai-juku.ac.jp/zento/grades/request/



■「成績推移」過回成績表示申請用紙の送付先 受付時間 9:00~17:00 (土日祝休み)

北海道営業 〒060-0809 札幌市北区北9条西3-3 (河合塾札幌校内) 【担当地区：北海道】	TEL(011) 708-8584
東北営業 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-7-22 (河合塾仙台校自習棟内) 【担当地区：青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島】	TEL(022) 215-7581
関東営業 〒330-0846 さいたま市大宮区大門町3-67-2 (河合塾大宮校内) 【担当地区：茨城・栃木・群馬・埼玉・新潟・富山・長野】	TEL(048) 647-9581
首都圏営業 〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-2 四谷グローバルスタディスクエア6階 【担当地区：千葉・東京・神奈川・山梨】	TEL(03) 6811-5532
中部営業 〒464-8610 名古屋市千種区今池2-1-10 (河合塾千種校内) 【担当地区：岐阜・静岡・愛知・三重】	TEL(052) 735-1511
近畿営業 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-13-1 【担当地区：石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・鳥取・岡山・徳島・香川・高知】	TEL(06) 6372-5731
中四国営業 〒732-0057 広島市東区二葉の里1-1-50 (河合塾二葉の里オフィス2階) 【担当地区：島根・広島・山口・愛媛】	TEL(082) 264-4581
九州営業 〒810-8619 福岡市中央区渡辺通4-2-11 (河合塾福岡校内) 【担当地区：福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄】	TEL(092) 714-5711